

# 愛知県美術館年報



目次

展示・展覧会	7
1998年度観覧者数一覧	7
所蔵作品展	8
所蔵作品展展示作品リスト	9
小企画展（テーマ展示）	25
企画展	26
移動美術館	40
作品の収集と保存管理	42
作品の収集	42
収集方針・収集の状況など	42
新収蔵作品	43
保存・修復	45
所蔵作品の貸出	47
教育普及	53
出版・発行	53
講演会・講座等	53
ギャラリートーク	54
各種鑑賞プログラム	54
ビデオトーク	55
博物館実習	55
友の会	56
調査研究	58
ギャラリー（貸館）	59
利用状況	59
利用者一覧	60
組織および職員構成図	62
関係役員会員名簿	63



## 1998年度観覧者数一覧

### 所蔵作品展

※( )は年度内(1998年4月1日-1999年3月31日)の数字

展示期	会 期	日 数	入場者数	一日平均
1998年度第Ⅰ期	1998年3月20日-6月7日	66 (56)	42,926 (36,665)	650 (655)
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		(35,749) (916)	(639) (16)
1998年度第Ⅱ期	6月19日-9月27日	82	68,599	837
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		67,384 1,215	822 15
1998年度第Ⅲ期	10月9日-1999年4月11日	148 (138)	35,201 (32,212)	238 (234)
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		(29,659) (2,553)	(215) (18)
	合 計	(276)	(137,476)	(498)
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		(132,792) (4,684)	(481) (17)

### 企画展

展覧会名	会期・日数	入場者数	一日平均
川合玉堂展	1998年3月20日-5月5日 (41日間)	70,936	1,730
久野真・庄司達展 -鉄の絵画と布の彫刻-	5月15日-6月7日 (21日間)	10,236	487
オルブライト=ノックス美術館展	6月19日-8月2日 (39日間)	66,342	1,701
生誕100年記念 佐伯祐三展	8月16日-9月27日 (37日間)	39,972	1,080
アルトゥング展	10月9日-12月13日 (57日間)	18,845	331
没後50年 松本竣介展	1999年1月8日-2月21日 (39日間)	24,551	630
ブッサンとラファエッロ -借用と創造の秘密-	3月5日-4月11日 (33日間)	13,387	406
合 計	(267日間)	244,269	915

## 所蔵作品展・小企画展（テーマ展示）

### 所蔵作品展

所蔵作品によって20世紀の美術を系統的に展示紹介することを基本として、大きく3期に分けて所蔵作品展を開催した。そのうち第Ⅰ期と第Ⅱ期はそれぞれ前・後期に、第Ⅲ期は前・中・後期に分け、日本画・素描・版画など部分的に展示替を行った。

### 小企画展（テーマ展示）

所蔵作品展示エリアの一部を用いて、特定のテーマに基づく小企画展を開催している。これは必ずしも所蔵作品によらず、20世紀美術史上重要な作家や運動、現代美術の新しい動向などを簡潔・敏捷に紹介したり、学芸員の調査研究活動を展示によって発表する場として企図されている。1992年の会館以来年に2～4回ほど開催してきたが、1998年度は下記の1展を開催した。

「杉浦邦恵展」 1998年6月19日－8月9日（第Ⅱ期前期）

### 1998年度所蔵作品展開催状況

展示期	会期・日数	展示作品数（小企画展は含まない）
第Ⅰ期前期	1998年3月20日－5月10日(46日間)	絵画85 彫刻34 版画12 その他1 計132
後期	5月15日－6月7日(20日間)	絵画84 彫刻36 素描11 計131
第Ⅱ期前期	6月19日－8月9日(45日間)	絵画57 彫刻31 版画25 素描3 その他13 計129
後期	8月16日－9月27日(37日間)	絵画76 彫刻27 素描5 素描2 その他10 計128
第Ⅲ期前期	10月9日－12月25日(67日間)	絵画72 彫刻33 版画7 その他8 計120
中期	1999年1月5日－2月28日(48日間)	絵画66 彫刻38 版画2 素描5 その他24 計135
後期	3月5日－4月11日(33日間)	絵画70 彫刻33 版画24 素描20 その他9 計156

### 展示室構成（○中の数字は展示室番号）

第Ⅰ期前期	④近代日本の美術 ⑤20世紀の美術 ⑥現代の美術 ⑦現代の版画 ⑧特集展示：アンドリュウ・ワイエスの世界Ⅰ
第Ⅰ期後期	④近代日本の美術 ⑤20世紀の美術 ⑥戸谷成雄の地霊と森 ⑦特集展示：アンドリュウ・ワイエスの世界Ⅱ ⑧戸張孤雁と大正期の彫刻
第Ⅱ期前期	④⑤20世紀の美術 ⑥小企画展：杉浦邦恵 ⑦戦後の日本画Ⅰ ⑧特集展示：長谷川潔
第Ⅱ期後期	④⑤20世紀の美術 ⑥特集展示：佐伯祐三の周辺 ⑦戦後の日本画Ⅱ ⑧特集展示：オットー・ディックス『戦争』
第Ⅲ期前期	④近代日本の美術 ⑤20世紀の美術 ⑥特集展示：日本の熱い抽象 ⑦愛知の日本画 ⑧特集展示：フェルナン・レジェ「サーカス」
第Ⅲ期中期	④近代日本の美術 ⑤20世紀の美術 ⑥アルプとマン・レイの版画 ⑦⑧近代の日本画
第Ⅲ期後期	③近代日本の素描 ④近代日本の美術 ⑤20世紀の美術 ⑥陸 根丙 ⑦平成9年度新収蔵作品展：辰野登恵子と長谷川潔の版画 ⑧平成10年度新収蔵作品展

■1998年度 第I期 前期 (3月20日-5月10日)

展示室4 近代日本の美術

<絵画>

高橋 由一	厨房具	1878頃
高橋 由一	不忍池	1880頃
久米 桂一郎	秋景	1892
黒田 清輝	暖き日	1897
山下 新太郎	白耳義の少女	1909
安井 曾太郎	婦人像	1912頃
梅原 龍三郎	若き羅馬人	1909
小出 檜重	N婦人像	1918
小出 檜重	蔬菜静物	1925
中村 彝	少女裸像	1914
河野 通勢	自画像	1917
岸田 劉生	斎藤与里氏像	1913
岸田 劉生	高須光治君之肖像	1915
宮脇 晴	お手玉の少女	1922

<彫刻>

荻原 守衛	女の胴	1907
中原 悌二郎	憩える女	1919
戸張 孤雁	煌めく嫉妬	1924

<絵画>

清水 登之	建築現場(ワーガーデン)	1923
古賀 春江	夏山	1927

北川 民次	メキシコ三童女	1937
前田 寛治	褐衣婦人像	1925
藤田 嗣治	青衣の女	1925
海老原 喜之助	雪山と樵	1930
安井 曾太郎	承徳喇嘛廟	1938
須田 国太郎	樹下	1954
三岸 節子	魚とインカの壺	1952
香月 泰男	散歩	1953
荻須 高德	線路に面した家	1955
森 芳雄	女たち	1954
山口 薫	ボタン雪と騎手	1953
脇田 和	断層の人と鳥	1960
麻生 三郎	胴体と頭と電球	1964

<彫刻>

高田 博厚	女のトルソ	1937
柳原 義達	黒人の女	1956

展示室5 20世紀の美術

<絵画>

エドゥワール・ヴェイヤール	窓辺の女	1898
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	1902
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-13

エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
アンリ・マティス	待つ	1921-22
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
フランティシェク・クプカ	灰色と金色の展開	1919

<彫刻>

オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち II	1913
レイモン・デュシャン＝ヴィヨン	恋人たち	1913

<絵画>

ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
パウル・クレー	女の館	1921
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ポール・デルヴォー	こだま	1943
ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
アントニ・タピエス	コンポジション	1977

ニコラ・ド・スタール コンボジション 1948

アド・ラインハート No.114 1950

〈彫刻〉

ハンス・アルプ 森 1917頃

アレクサンダー・コルダール 片膝ついて 1944

〈絵画〉

モーリス・ルイス デルタ・ミュー 1960-61

サム・フランシス 消失にむかう地点の青 1958

桑山 忠明 茶白青 1968

〈彫刻〉

イヴ・クライン 肖像レリーフ アルマン 1962

ジョージ・シーガル ロバート&エセル・スカルの肖像 1965

ルイズ・ニーヴェルソン 漂う天界 1959-66

展示室6 現代の美術

〈絵画〉

斎藤 義重 作品 1962

瑛九 田園 1959・寄託作品

オノサト トシノブ 三つの黒 1958

加納 光於 繁み・運動・エレメントB 1988

宇佐美 圭司 長い歩み 1964

中西 夏之 紫・むらさき XIX 1983

堂本 尚郎 絵画1962-25 1962

フランク・ステラ River of Ponds IV 1969

〈彫刻〉

岡本敦生・野田裕示 コラボレーション 1996

〈絵画〉

堀 浩哉 風の音へ -84.2 1984

堀 浩哉 水の肌へ -84.2 1984

〈立体〉

原 裕治 アボクリファ No.1 1994

千崎 千恵夫 無題 1992

田窪 恭治 廃墟 1985

西村 陽平 1992 IRON CONTAINER FOR MUMMIFIED MAGAZINES

舟越 桂 肩で眠る月 1996

〈水彩・素描〉

ラインハルト・セビエ 思想家 1993

展示室7 現代の版画

〈版画〉

薺嘯 グッドバイ ムッシュ ゴーギャン 1973

瑛九 しゃがんで 1951

瑛九 驚き 1951

瑛九 作品 制作年不詳

木村 光祐 OUT OF TIME-24 1970

小野木 学 Landscape L・U・L 1974

オノサト トシノブ 作品 1971

加納 光於 PENINSULAR No.6 1967

加納 光於 稲妻捕りL 1977

大沢 昌助 そうぐう 1989

長岡 国人 6人の日本人ノーベル賞受賞者を称える 1986-87

サム・フランシス 春 1984-88

展示室8 特集展示 アンドリュー・ワイエスの世界 I

〈絵画〉

アンドリュー・ワイエス クリステイナのティーポット 1968・寄託作品

アンドリュー・ワイエス フィンランド人 1969・寄託作品

アンドリュー・ワイエス オルソン家の終わり 1969・寄託作品

アンドリュー・ワイエス 雨雲 1969 寄託作品

アンドリュー・ワイエス さらされた場所 1965・寄託作品

アンドリュー・ワイエス リンゴ酒の樽 1969・寄託作品

アンドリュー・ワイエス ティールの島 1954・寄託作品

アンドリュー・ワイエス 家庭菜園 1962・寄託作品

アンドリュー・ワイエス 自由な人 1969・寄託作品

アンドリュー・ワイエス 酒密輸入 1974 (45)・寄託作品

アンドリュー・ワイエス 干草の棚 1957・寄託作品

アンドリュー・ワイエス 酒密輸入(ウォルター・アンダーソン習作) 1974・寄託作品

アンドリュー・ワイエス トムの小屋 1960・寄託作品

アンドリュー・ワイエス トウヒの大枝 1969・寄託作品

ロビーなど

〈絵画〉

エドワード・ジョン・ポインター 世界の若かりし頃 1891

辰野 登恵子 Untitled 95-1 1995

三尾 公三 鏡の前 1982

島田 章三 石庭女人図 1976

荒川 修作 Blank Stations 1981-82

<彫刻>

ジョルジュ・ミンヌ 聖遺物箱を担ぐ少年 1897

エミール・アントワヌ・ブールデル ベネローブ 1909

ジャコモ・マンズー 踊りのステップ 1953

■1998年度 第I期 後期(5月15日-6月7日)

展示室4 近代日本の美術

<絵画>

高橋 由一 厨房具 1878頃

高橋 由一 不忍池 1880頃

久米 桂一郎 秋景 1892

黒田 清輝 暖き日 1897

山下 新太郎 白耳義の少女 1909

安井 曾太郎 婦人像 1912頃

梅原 龍三郎 若き羅馬人 1909

小出 櫛重 N婦人像 1918

小出 櫛重 蔬菜静物 1925

中村 彝 静物 1915頃

河野 通勢 自画像 1917

岸田 劉生 斎藤与里氏像 1913

岸田 劉生 高須光治君之肖像 1915

加藤 昭男 ツタンカーメンのえんどう豆 1996

荒木 高子 砂の聖書 1983

工藤 哲巳 果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン 1997

本郷 新 無事の民「油田地帯」 1970

北山 善夫 はなはだ大きいと言ふべきである 1984

若林 奮 大気中の緑色に属するものI 1982

宮脇 晴 お手玉の少女 1922

<絵画>

清水 登之 建築現場(ワーガーデン) 1923

古賀 春江 夏山 1927

北川 民次 メキシコ三童女 1937

前田 寛治 褐衣婦人像 1925

藤田 嗣治 青衣の女 1925

海老原 喜之助 雪山と樵 1930

安井 曾太郎 承德喇嘛廟 1938

須田 国太郎 樹下 1954

三岸 節子 魚とインカの壺 1952

香月 泰男 散歩 1953

荻須 高德 線路に面した家 1955

森 芳雄 女たち 1954

山口 薫 ボタン雪と騎手 1953

屋外展示場

<立体>

コルネリス・ジットマン カリブの女 1983

アルナルド・ボモドーロ 飛躍の瞬間 1984

加藤 昭夫 大地 1986

小田 襄 円柱の構造 1988

今井 瑾郎 大地 1992

脇田 和 断層の人と鳥 1960

麻生 三郎 胴体と頭と電球 1964

<彫刻>

高田 博厚 女のトルソ 1937

柳原 義達 黒人の女 1956

展示室5 20世紀の美術

<絵画>

エドゥワール・ヴェイヤール 窓辺の女 1898

アルベール・マルケ ノートルダムの後陣 1902

ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺 1906

パブロ・ピカソ 青い肩かけの女 1902

アメデオ・モディリアーニ カリアティード 1911-13

エルnst・ルートヴィヒ・キルヒナー グラスのある静物 1912

グスタフ・クリムト 人生は戦いなり(黄金の騎士) 1903

エミール・ノルデ 静物L(アマゾン、能面等) 1915

ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
アンリ・マティス	待つ	1921-22
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
〈彫刻〉		
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち II	1913
レイモン・デュシャン＝ヴィヨン	恋人たち	1913
〈絵画〉		
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
パウル・クレー	女の館	1921
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ポール・デルヴォー	こだま	1943
ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948
アド・ラインハート	No.114	1950
〈彫刻〉		
ハンス・アルプ	森	1917頃

アレクサンダー・コルダ	片膝ついて	1944
〈絵画〉		
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-61
サム・フランシス	消失にむかう地点の青	1958
桑山 忠明	茶白青	1968
〈彫刻・立体〉		
イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-66
〈絵画〉		
斎藤 義重	作品	1962
瑛九	田園	1959・寄託作品
オノサト トシノブ	三つの黒	1958
加納 光於	繁み・運動・エレメントB	1988
宇佐美 圭司	長い歩み	1964
中西 夏之	紫・むらさき XIX	1983
堂本 尚郎	絵画1962-25	1962
フランク ステラ	River of Ponds IV	1969
〈立体〉		
岡本敦生・野田裕示	コラボレーション	1996
展示室6 戸谷成雄の地霊と森		
〈立体〉		
戸谷 成雄	地霊	1990
戸谷 成雄	森	1992

展示室8 特集展示 アンドリュー・ワイエスの世界II		
〈絵画〉		
アンドリュー・ワイエス	巻き貝	1953・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	干草の棚	1957・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	ピーター・ワイエス・ハード	1961・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	さらされた場所	1965・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	境界線	1967・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	バザース・グローリー	1968・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	木材運搬用そり	1968・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	エルウェルの製材所	1968・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	フィンランド人	1969・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	ノジーシク	1972・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	カナダ	1974・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	ケープ族出身	1974・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	酒密輸入	1974(1945)・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	カス	1975・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	ローデン・コート	1975・寄託作品
アンドリュー・ワイエス	クエーカー教徒	1975・寄託作品
展示室8 戸張孤雁と大正期の彫刻		
〈彫刻〉		
戸張 孤雁	をなご(頭部)	1910
戸張 孤雁	立てる女	1911
戸張 孤雁	立てる女	制作年不詳
戸張 孤雁	トルソ	1922

戸張 孤雁	煌めく嫉妬	1924
戸張 孤雁	女の面部	制作年不詳
荻原 守衛	女の胴	1907
中原 悌二郎	エチュード	1914
中原 悌二郎	憩える女	1919
中原 悌二郎	平櫛田中像	1919-21

<素描>

戸張 孤雁	玉乗り	制作年不詳
戸張 孤雁	綱渡り	制作年不詳
戸張 孤雁	綱渡り(肩車)	制作年不詳
戸張 孤雁	曲芸師	制作年不詳
戸張 孤雁	裸婦	制作年不詳
戸張 孤雁	裸婦2態	制作年不詳

戸張 孤雁	裸婦、浴場	制作年不詳
戸張 孤雁	裸婦	制作年不詳
戸張 孤雁	卓にふせる	制作年不詳
戸張 孤雁	卓にふせる	制作年不詳
戸張 孤雁	女の横顔	制作年不詳

ロビーなど

<絵画>

エドワード・ジョン・ポインター	世界の若かりし頃	1891
島田 章三	石庭女人図	1976
三尾 公三	鏡の前	1982
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995

<彫刻・立体>

ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	1897
-----------	-----------	------

エミール・アントワーン・ブールデル	ペネロープ	1909
ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ	1953
本郷 新	無辜の民「油田地帯」	1970
荒木 高子	砂の聖書	1983
加藤 昭男	ツタンカーメンのえんどう豆	1996
工藤 哲巳	果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン	1997

屋外展示場

<彫刻・立体>

コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭夫	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

■1998年度 第Ⅱ期 前期(6月19日-8月9日)

展示室4 20世紀の美術

<絵画>

グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	1902
アメデオ・モディリアーニ	キャリアティード	1911-13
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	目の当たる庭	1935
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906

アンリ・マティス	待つ	1921-22
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海I	1927
パウ・クレール	女の館	1921
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画52 美容	1920

クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画305 ロボジツツ	1921
フランシス・ピカビア	糸巻き	1921-22
メダロド・ロッシ	病める子	1893
ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	1897
レイモン・デュシャン=ヴィヨン	恋人たち	1913
アレクサンダー・アーチペンコ	歩く女	1912
エルンスト・バルラッハ	母なる大地II	1920

ハンス・アルプ	森	1917頃
〈版画〉		
オスカー・ココシュカ	夢みる少年たち	1907
挿絵画家協会、ウィーン	H.レフラー挿絵、H.C.アンデルセン「女王と豚飼」	1897・寄託作品
ローゼンハウム兄弟出版、ウィーン	G.クルム他挿絵、「ウィーン工房年鑑」	1905頃・寄託作品
ゲラハ&ヴィートリング出版、ウィーン・ライプツヒ	C.O.チェシュカ挿絵、F.カイク著「ニーベルンゲン」より	クリームヒルトの夢とジークフリートの旅
		1908・寄託作品
ヴァルヘルム・メルツァー、ウィーン	R.ゲイトン挿絵、「都市の舞踏会」	1909年・寄託作品

## 展示室5 20世紀の美術

### 〈絵画〉

ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ポール・デルヴォー	こだま	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
村井・正誠	ゴルフジュアンの船	1929
村井 正誠	Cité B	1940
村井 正誠	天使	1950
田淵 安一	有機的表象	1955
斎藤 義重	作品	1962
山口 長男	屏形	1963
瑛九	黄色い花	1957-58

瑛九	田園	1959・寄託作品
アド・ラインハート	No.114	1950
ジョーゼフ・アルバース	正方形額	1962
山田 正亮	Work No.B 182	1958
浅野 弥衛	作品	1979
猪熊 弦一郎	マンハッタンA	1966
菅井 汲	ナショナル ルート No.11	1964
難波田 龍起	原初の風景B	1987
デイビッド・スマス	チャイニーズ・レストラン	1959・寄託作品

### 〈絵画〉

アグネス・マーチン	BUDS	1959・寄託作品
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
アンディ・ウォーホル	レディーズ・アンド・ジェントルメン	1975
桑山 忠明	茶白青	1968
上田 薫	なま玉子G	1976
荒川 修作	作品	1963
中西 夏之	M字型 II	1981
加納 光於	繁み・運動・エレメントB	1988
堀 浩哉	水の肌へ-84.2	1984
宇佐美 圭司	ビッグ・バン	1987
野見山 暁治	伝承のかたち	1988
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995

### 〈素画〉

クリスト	旧ドイツ帝国国会議事堂の梱包	1986
------	----------------	------

### 〈彫刻〉

堀内 正和	四角と丸の組合せb	1956
アレクサンダー・コルター	片膝ついて	1944
イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカル	1965
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-66
舟越 桂	肩で眠る月	1996

## 展示室6 小企画展 杉浦邦恵

### 〈プリント〉

杉浦 邦恵	弧	1966-67
杉浦 邦恵	うなぎ	1996
杉浦 邦恵	惹きつけるもの	1998
杉浦 邦恵	飛び跳ねる	1996
杉浦 邦恵	子猫の書類	1992

## 展示室7 戦後の日本画 I

### 〈日本画〉

小松 均	富士	1977
今野 忠一	妙義	1977
東山 魁夷	雪の山郷	1991・作者寄贈
後藤 純男	春映法隆寺	1980
吉田 善彦	雨余桂林	1982
麻田 鷹司	鬼界ヶ島	1982

平川 敏夫	黄山松雨	1982
平山 郁夫	楼蘭の遺跡・昼	1990

## 展示室8 特集展示 長谷川潔

### <版 画>

長谷川 潔	プロヴァンスの古市(グラス)	1925
長谷川 潔	サン・ポール・ド・ヴァンスの村	1929
長谷川 潔	アネモネ	1929
長谷川 潔	アレクサンドル三世橋とフランスの飛行船	1930
長谷川 潔	摩天楼上空のボアン・ダンテロガシオン号	1930
長谷川 潔	野の枯草	1931
長谷川 潔	コクリコと野花(B)	1932
長谷川 潔	オランジュと葡萄	1932
長谷川 潔	シャトーアルヌーの寺院	1932
長谷川 潔	二つのアネモネ	1934
長谷川 潔	コップのダリア	1935
長谷川 潔	サン・ポール・ド・ヴァンスの風景	1936
長谷川 潔	三つのアネモネ	1937
長谷川 潔	一樹(ニレの樹)	1941

長谷川 潔	花(切りガラスに挿したアネモネと草花)	1944-45
長谷川 潔	フレジユスの古代ローマの燈台	1952
長谷川 潔	アカシアの老樹	1954
長谷川 潔	木と月	1954
長谷川 潔	再生したる林檎樹	1956
長谷川 潔	飾り棚のオブジェ	1962

### ロビーなど

### <絵 画>

エドワード・ジョン・ポインター	世界の若かりし頃	1891
モーリス・ルイス	デルタ・ミュウ	1960-61
今村 幸生	雷神図	1983・寄託作品
田淵 俊夫	くず花	1982

### <彫 刻>

オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
エミール・アントワーン・ブールデル	ベネロープ	1909
エミール・アントワーン・ブールデル	力	1914-15
エミール・アントワーン・ブールデル	勝利	1916
エミール・アントワーン・ブールデル	雄弁	1916

エミール・アントワーン・ブールデル	自由	1916
ジャーコモ・マンズー	ある主題によるヴァリエーション	1947-66
ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ	1953
ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
北山 善夫	言葉が輝くとき	1987
荒木 高子	砂の聖書	1983
岡本敦生・野田裕示	地殻一潜むかたち	1996-97

土谷 武	植物空間	1990
加藤 昭男	ツタンカーメンのえんどう豆	1996

### <素 描>

若林 奮	大気中の緑色に属するもの制作ノート	1981-82
------	-------------------	---------

## 屋外展示スペース

### <彫刻・立体>

コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭夫	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

## ■1998年度 第Ⅱ期 後期(8月16日-9月27日)

## 展示室4 20世紀の美術

### <絵 画>

グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	1902

アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-13
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭	1935

ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
アンリ・マティス	待つ	1921-22
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃

ジャック・ヴィヨン	存在	1920
フランティシュク・クプカ	灰色と金色の展開	1919
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
パウル・クレー	女の館	1921
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画52 美容	1920
クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画305 ロボジツツ	1921
〈素描〉		
フランシス・ピカピア	糸巻き	1921-22
〈彫刻〉		
メダロド・ロッソ	病める子	1893
ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	1897
レイモン・デュシャン＝ヴィヨン	恋人たち	1913
アレクサンダー・アーチベンコ	歩く女	1912
エルンスト・バルラッハ	母なる大地	1920
ハンス・アルプ	森	1917頃
〈版画〉		
オスカー・ココシュカ	夢みる少年たち	1907
挿絵画家協会、ウィーン	H.レフラー挿絵、H.C.アンデルセン「王女と豚飼」	1897・寄託作品
ローゼン/ワム兄弟出版、ウィーン	G.クリムト他挿絵、「ウィーン工房年鑑」	1905頃・寄託作品
ゲルラハ&ヴィートリング出版、ウィーン・ライブツィヒ	C.O.チェシュカ挿絵、F.カイク著「ニーベルンゲン」より クリームヒルトの夢とジークフリートの旅	1908・寄託作品
ヴァルヘルム・メルツァー、ウィーン	R.ゲイリング挿絵、「都市の舞踏会」	1909年・寄託作品

## 展示室5 20世紀の美術

### 〈絵画〉

ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ポール・デルヴォー	こだま	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
村井 正誠	ゴルフジュアンの船	1929
村井 正誠	Cité B	1940
村井 正誠	天使	1950
田淵 安一	有機的表象	1955
斎藤 義重	作品	1962
山口 長男	屏形	1963
瑛九	黄色い花	1957-58
瑛九	田園	1959・寄託作品
アド・ラインハート	No.114	1950
ジョーゼフ・アルバース	正方形顔	1962
山田 正亮	Work No.B 182	1958
浅野 弥衛	作品	1979
猪熊 弦一郎	マンハッタンA	1966
菅井 汲	ナショナル ルート No.11	1964
難波田 龍起	原初の風景B	1987

デイビッド・スミス	チャイニーズ・レストラン	1959・寄託作品
〈絵画〉		
アグネス・マーチン	BUDS	1959・寄託作品
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
アンディ・ウォーホル	レディース・アンド・ジェントルメン	1975
桑山 忠明	茶白青	1968
上田 薫	なま玉子G	1976
荒川 修作	作品	1963
中西 夏之	M字型 II	1981
加納 光於	繁み・運動・エレメントB	1988
堀 浩哉	水の肌へ-84.2	1984
宇佐美 圭司	ビッグ・バン	1987
野見山 暁治	伝承のかたち	1988
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995
〈素描〉		
クリスト	旧ドイツ帝国国会議事堂の梱包	1986
〈彫刻〉		
堀内 正和	四角と丸の組合せb	1956
アレクサンダー・コルダー	片膝ついて	1944
イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-66
舟越 桂	肩で眠る月	1996

展示室6 特集展示 佐伯祐三の周辺

〈絵画〉

川口 軌外	二婦	1939
里見 勝蔵	裸婦	1930
里見 勝蔵	婦人像	1937
前田 寛治	褐衣婦人像	1925
前田 寛治	母の像	1928頃
中山 巍	街角	1927
中山 巍	青背座婦	1927
小島 善太郎	房州風景	1930
木下 孝則	読書	1931
野口 弥太郎	門	1931頃
伊藤 廉	ギター奏手	1932
荻須 高德	線路に面した家	1955
山口 長男	庭	1935

展示室7 戦後の日本画Ⅱ

〈日本画〉

裨田 一穂	孔雀と女	1982
近藤 弘明	幽光	1981
加山 又造	黒い鳥	1957

■1998年度 第Ⅲ期 前期 (10月9日-12月25日)

展示室4 近現代日本の美術

高橋 由一	厨房具	1878頃
-------	-----	-------

吉岡 堅二	鶴	1959
山本 丘人	幻雪	1978
上村 松篁	玄鶴	1968
小山 硬	天草	1974
大森 運夫	島の鬼太鼓	1976
中村 正義	爽爽	1966
工藤 甲人	坐忘	1982

展示室8

〈版画〉

オットー・ディックス	銅版画集〈戦争〉	1924
------------	----------	------

ロビーなど

〈絵画〉

エドワード・ジョン・ポインター	世界の若かりし頃	1891
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-61
佐々木 四郎	開かれた空間	1979
中村 正義	舞妓	1974
中村 正義	顔	1976
中村 正義	顔	1976
小嶋 悠司	穢土	1985
岡村 桂三郎	白虎	1992

〈絵画〉

高橋 由一	厨房具	1878頃
-------	-----	-------

岡村 桂三郎	朱雀	1992
--------	----	------

下村 良之助	鼓舞	1964
--------	----	------

〈彫刻〉

オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
エミール・アントワヌ・ブールデル	ベネローブ	1909
エミール・アントワヌ・ブールデル	力	1914-15
エミール・アントワヌ・ブールデル	勝利	1916
エミール・アントワヌ・ブールデル	雄弁	1916
エミール・アントワヌ・ブールデル	自由	1916
ジャールコモ・マンズー	踊りのステップ	1953
ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
加藤 昭男	ツタンカーメンのえんどう豆	1996
岡本敦生・野田裕示	地殻-潜むかたち	1996-97

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

高橋 由一	不忍池	1880頃
-------	-----	-------

浅井 忠	八王子付近の街	1887
------	---------	------

鈴木 不知	山畑	1910
梅原 龍三郎	若き羅馬人	1909
山下 新太郎	白耳義の少女	1909
小出 檣重	N婦人像	1918
小出 檣重	蔬菜静物	1925
中村 彝	少女裸像	1914
宮脇 晴	お手玉の少女	1922
岸田 劉生	高須光治君之肖像	1915
大沢 鉦一郎	自画像	1919
大田 三郎	婦人像	1915頃
大沢 鉦一郎	少女海水浴	1932
神原 泰	生命の流動	1924
村井 正誠	ゴルフジュアンの船	1929
山口 長男	庭	1935
国吉 康雄	荒天	1936
北川 民次	タスコよりの眺望	1933
北川 民次	メキシコ三童女	1937
古賀 春江	夏山	1927
海老原 喜之助	雪山と樵	1930
島海 青児	石の街(ペルー マチュ・ピチュ)	1961
山口 薫	ボタン雪と騎手	1953
香月 泰男	散歩	1953
矢橋 六郎	武蔵野 冬 杉林	1941
脇田 和	断層の人と鳥	1960

島田 章三	人と植物のようす	1994
大沼 映夫	二人	1977
〈彫刻〉		
高田 博厚	女のトルソ	1937
柳原 義達	風の中の鴉	1982
展示室5 20世紀の美術		
〈絵画〉		
エドゥワール・ヴェイヤール	窓辺の女	1898
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
藤田 嗣治	青衣の女	1925
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
アンリ・マティス	待つ	1921-22
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-13
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
パウル・クレー	女の館	1921
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925

ポール・デルヴォー	こだま	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
〈彫刻・立体〉		
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
レイモン・デュシャン＝ヴィヨン	恋人たち	1913
エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-12
ハンス・アルブ	森	1917頃
ハンス・アルブ	星座	1932
〈版画〉		
ジェームズ・アンソール	キリストのブリュッセル入城	1898
ライオネル・ファイニンガー	緑色の橋	1910-11
エゴン・シーレ	しゃがみこむ女	1914
パウル・クレー	喜劇役者(インヴェンション4)	1904
エミール・ノルデ	おしゃべり	1917頃
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	三本の道	1917頃
〈絵画〉		
ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948
ルーチョ・フォンターナ	空間概念	1960
アグネス・マーチン	無題 3	1991・寄託作品
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958
アンディ・ウォーホル	レディーズ・アンド・ジェントルメン	1975
アド・ラインハート	No. 114	1950

モーリス・ルイス	デルタ・ミュウ	1960-61
斎藤 義重	ゼロイスト	1973 (1950)
桑山 忠明	茶白青	1968
百瀬 寿	Square-NE XIV: Twelve Stripes E	1987

<彫刻・立体>

イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-66
舟越 桂	肩で眠る月	1996

展示室6 日本の熱い抽象

<絵画>

杉全 直	或る地点の記録 (5)	1957
杉全 直	窪んだ空間 (B)	1958
今井 俊満	東方の光	1960
元永 定正	作品	1961
白髪 一雄	作品	1963
堂本 尚郎	絵画1962-25	1962
田淵 安一	有機的表象	1955
難波田 龍起	萌	1961
斎藤 義重	作品	1962

展示室7 愛知の日本画

<日本画>

横山 葩生	山峡の浅春	1929
我妻 碧宇	大仏殿暮色	1950

石川 英鳳	猿猴の図	1935
森村 瓦桶	四季草花図	大正後期
朝見 香城	柳影	1925
嶋谷 自然	緑影	1950
川崎 小虎	四季草花野菜絵巻	1945頃

展示室8 フェルナン・レジェ「サーカス」

<版画>

フェルナン・レジェ	サーカス	1950
-----------	------	------

<彫刻・立体>

アレクサンダー・コールター	片膝について	1944
---------------	--------	------

ロビーなど

<絵画>

菅井 汲	ナショナル ルート No.11	1964
尾藤 豊	モスクワの地下鉄	1957
尾藤 豊	拠点の崩壊	1959-60

<彫刻・立体>

メダルド・ロッシ	病める子	1893
内田 土卯	北の山	1967
ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	1897
エミール・アントワーン・ブールデル	ベネローブ	1909
エミール・アントワーン・ブールデル	力	1914-15
エミール・アントワーン・ブールデル	勝利	1916
エミール・アントワーン・ブールデル	雄弁	1916
エミール・アントワーン・ブールデル	自由	1916

ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ	1953
ヴェルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
加藤 昭男	ツタンカーメンのえんどう豆	1996
荒木 高子	砂の聖書	1983
工藤 哲巳	果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン	1977

本郷 新	無辜の民「仏生」	1970
------	----------	------

本郷 新	裸婦坐像	1975
------	------	------

岡本敦生・野田裕示	地殻一潜むかたち	1996-97
-----------	----------	---------

久野 真	鋼鉄による作品	1962
------	---------	------

屋外展示スペース

<彫刻・立体>

コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

■1999年度 第三期 中期(1月5日-2月28日)

展示室4 近代日本の美術

<絵画>

高橋 由一	厨房具	1878頃
高橋 由一	不忍池	1880頃
浅井 忠	八王子付近の街	1887
久米 桂一郎	秋景	1892
梅原 龍三郎	苔き羅馬人	1909
安井 曾太郎	婦人像	1912頃
中村 彝	少女裸像	1914
坂本 繁二郎	海岸の家	1915
岸田 劉生	斉藤与里氏像	1913
大沢 鉦一郎	大曾根風景	1919
大沢 鉦一郎	ジンベを着た少女	1920
宮脇 晴	自画像	1920
宮脇 晴	お手玉の少女	1922
小出 楯重	蔬菜静物	1925
伊藤 廉	肘をつく女	1929
佐分 真	裸婦	1925頃
鬼頭 鍋三郎	浴後	1938
海老原 喜之助	雪山と樵	1930
安井 曾太郎	承德喇嘛廟	1938
須田 国太郎	樹下	1954
古賀 春江	夏山	1927

北川 民次	南国の花	1940
鳥海 青児	うづくまる	1954
牛島 憲之	埋れる船	1962
香月 泰男	散歩	1953
荻須 高德	線路に面した家	1955
森 芳雄	女たち	1954
山口 薫	ボタン雪と騎手	1953
脇田 和	断層の人と鳥	1960
麻生 三郎	胴体と頭と電球	1964
<彫刻>		
柳原 義達	風の中の鴉	1982

展示室5 20世紀の美術

<絵画>

エドゥワール・ヴェイヤール	窓辺の女	1898
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	1902
藤田 嗣治	青衣の女	1925
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
アンリ・マティス	待つ	1921-22
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912

グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
アメデオ・モディリアアーニ	カリアティード	1911-13
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
パウル・クレー	女の館	1921
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海I	1927
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ポール・デルヴォー	こだま	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ジャン・デュビュッフエ	二人の脱走兵	1953

<彫刻・立体>

メダルド・ロッシ	病める子	1893
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
レイモン・デュシャン=ヴィヨン	恋人たち	1913
エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-12
ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち	1913
アレクサンダー・コルダ	片膝ついて	1944

<絵画>

ルーチョ・フォンターナ	空間概念	1960
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
アグネス・マーチン	無題3	1991・寄託作品

フランク・ステラ River of Ponds IV  
1969

サム・フランシス 消失に向かう地点の青  
1958

アンディ・ウォーホル レディース・アンド・ジェントルメン  
1975

アド・ラインハート No. 114  
1950

モーリス・ルイス デルタ・ミュー  
1960-61

斎藤 義重 ゼロイスト  
1973 (1950)

難波田 龍起 萌  
1961

桑山 忠明 茶白青  
1968

百瀬 寿 Square-NE XIV: Twelve Stripes E  
1987

<彫刻・立体>

イヴ・クライン 肖像レリーフ アルマン  
1962

ジョージ・シーガル ロバート&エセル・スカルの肖像  
1965

ルイズ・ニーヴェルソン 漂う天界  
1959-66

展示室6 アルプとマンレイ

<彫刻・立体>

ハンス・アルプ 森  
1917頃

ハンス・アルプ 星座  
1932

<版画>

ハンス・アルプ 7つのアルプ集  
1923

マン・レイ 回転扉  
1926

展示室7 近代の日本画

<日本画>

富岡 鉄斎 夏景山水図  
1912・寄託作品

富岡 鉄斎 轆轤図  
1924・寄託作品

竹内 栖鳳 狐狸図  
1908頃

小林 古径 洗濯場 その1  
1926

小林 古径 洗濯場 その2  
1926

速水 御舟 西郊小景  
1923

小茂田 青樹 柿  
1919頃

小茂田 青樹 漁村早春  
1921

小杉 放庵 花鳥屏風  
1946-55頃

<素描>

小林 古径 洗濯場 その1 下絵  
1926

小林 古径 洗濯場 その2 下絵  
1926

土田 麦麩 蓮華(下図)  
1930

展示室8 近代の日本画

<日本画>

小川 芋銭 沼四題 松原  
1922・寄託作品

小川 芋銭 沼四題 小蝦網  
1922・寄託作品

小川 芋銭 沼四題 家鴨小屋  
1922・寄託作品

小川 芋銭 沼四題 泥鰌打  
1922・寄託作品

川合 玉堂 湖畔晩婦  
1928

村上 華岳 魔障之図  
1923

村上 華岳 務古山之図  
1935頃・寄託作品

村上 華岳 観世音菩薩  
1935・寄託作品

村上 華岳 散華  
1939

入江 波光 南吹小景  
1923

東山 魁夷 雪の山郷  
1991

加山 又造 寂  
1983-84頃・寄託作品

高山 辰雄 農家のある風景  
1955・寄託作品

高山 辰雄 月光の道  
1985-87頃・寄託作品

高山 辰雄 庭の猫  
1985頃・寄託作品

ロビーなど

<絵画>

エドワード・ジョン・ポインター 世界の苦かりし頃  
1891

辰野 登恵子 Untitled 95-1  
1995

<彫刻・立体>

ジョルジュ・ミンヌ 聖遺物箱を担ぐ少年  
1897

エミール・アントワヌ・ブールデル ベネローブ  
1909

エミール・アントワヌ・ブールデル 力  
1914-15

エミール・アントワヌ・ブールデル 勝利  
1916

エミール・アントワヌ・ブールデル 雄弁  
1916

エミール・アントワヌ・ブールデル 自由  
1916

ジャコモ・マンズー 踊りのステップ  
1953

ヴィルヘルム・レームブルック 立ち上がる青年  
1913

荻原 守衛 女の胴  
1907

中原 悌二郎 憩える女  
1919

戸張 孤雁 をなご(頭部)  
1910

戸張 孤雁 立てる女  
1911

戸張 孤雁 トルソ  
1922

戸張 孤雁 トルソ  
制作年不詳

戸張 孤雁 煌めく嫉妬  
1924

戸張 孤雁	煌めく嫉妬	1924
高田 博厚	女のトルソ	1937
本郷 新	無辜の民「油田地帯」	1970
舟越 保武	シオン	1979
舟越 桂	肩で眠る月	1996
岡本敦生・野田裕示	地殻一潜むかたち	1996-97

〈素描〉		
戸張 孤雁	もたれる裸婦	制作年不詳
戸張 孤雁	卓にふせる	制作年不詳
屋外展示スペース		
〈彫刻・立体〉		
コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983

アルナルド・ポモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

■1999年度 第Ⅲ期 後期(3月5日-4月11日)

展示室3 近代日本の素描

〈素描〉

小山 正太郎	西船堀村	1891
安井 曾太郎	風景	1905
安井 曾太郎	静物	1906
坂本 繁二郎	張物下絵	制作年不詳
宮脇 晴	手	1923
大沢 鉦一郎	婦人像	1920
藤島 武二	朝鮮服の女	制作年不詳
藤島 武二	宝庫擁護	制作年不詳
藤島 武二	飾り門の下	制作年不詳
鬨光	編物をする女	1934
村山 槐多	信州風景	1914-15
古賀 春江	川沿いの家	制作年不詳
小出 檣重	裸婦	1930
藤田 嗣治	男の顔	1933

鶴田 吾郎	奉天東陵	1940頃
伊藤 廉	風景	1940頃
宮本 三郎	プロフィール	1962
佐分 真	婦人座像(マガジンを読む)	1932頃
海老原 喜之助	母と子と顔かたちなど	1951
海老原 喜之助	肘を挙げる女	制作年不詳

〈彫刻〉

中原 悌二郎	憩える女	1919
戸張 孤雁	立てる女	1911
荻原 守衛	女の胴	1907

展示室4 近代日本の美術

〈絵画〉

高橋 由一	不忍池	1880頃
浅井 忠	八王子付近の街	1887
黒田 清輝	暖き日	1897
久米 桂一郎	秋景	1892

藤島 武二	ボンベイの遺跡	1908-9頃・寄託作品
青木 繁	風景	制作年不詳・寄託作品
坂本 繁二郎	海岸の家	1915
中村 彝	少女裸像	1914
安井 曾太郎	婦人像	1912頃
岸田 劉生	斉藤与里氏像	1913
河野 通勢	自画像	1917
木村 莊八	壺を持つ女	1915
小出 檣重	蔬菜静物	1925
藤田 嗣治	青衣の女	1925
佐伯 祐三	自動車小屋	1925・寄託作品
木下 孝則	読書	1931
海老原 喜之助	雪山と樵	1930
安井 曾太郎	承德喇嘛廟	1938
須田 国太郎	樹下	1954
古賀 春江	夏山	1927

北川 民次	南国の花	1940
鳥海 青児	うづくまる	1954
牛島 憲之	埋れる船	1962
香月 泰男	散歩	1953
荻須 高德	線路に面した家	1955
森 芳雄	女たち	1954
山口 薫	ボタン雪と騎手	1953
脇田 和	断層の人と鳥	1960
麻生 三郎	胴体と頭と電球	1964

<彫刻>

高田 博厚	女のトルソ	1937
-------	-------	------

展示室5 20世紀の美術

<絵画>

エドゥワール・ヴェイヤール	窓辺の女	1898
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
バプロ・ピカソ	青い肩かけの女	1902
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
エミール・ノルデ	静物L.(アマゾン、能面等)	1915
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
エルンスト・ルトヴ化・キルヒナー	グラスのある静物	1912
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927

ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
ハウル・クレール	女の館	1921
ハンス・アルプ	森	1917頃
ハンス・アルプ	星座	1932
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ポール・デルヴォー	こだま	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
ニコラ・ド・スターール	コンポジション	1948
堂本 尚郎	絵画1962-25	1962
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
斎藤 義重	作品	1962
アンディ・ウォーホル	レディーズ・アンド・ジェントルメン	1975
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958
オノサト トシノブ	三つの黒	1958
山田 正亮	Work No.B182	1958
桑山 忠明	茶白青	1968
アド・ラインハート	No. 114	1950
瑛九	田園	1959・寄託作品
中西 夏之	紫むらさき XIX	1983
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
加納 光於	繁み・運動・エレメントB	1988

<版画>

フランツ・ゲルチュ	ナターシャIV	1987-88
-----------	---------	---------

<彫刻・立体>

メダルド・ロッツ	病める子	1893
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
レイモン・デュシャン＝ヴィヨン	恋人たち	1913
エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-12
ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち	1913
アレクサンダー・コールドー	片膝について	1944
イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-66

展示室6 陸 根丙のヴィデオインスタレーション

陸 根丙	Sound of Landscape + Eye for Field = Survival is History	1995
------	--	------

展示室7

特集展示 平成9年度新収蔵作品展  
辰野登恵子と長谷川潔の版画

<版画>

辰野 登恵子	Aug.-Oct. 1992	1992
長谷川 潔	野辺小禽	1957
長谷川 潔	静物	1958
長谷川 潔	瓶の秋草	1959
長谷川 潔	小鳥と落葉	1959
長谷川 潔	薔薇と封書	1959
長谷川 潔	人形のある静物	1960

長谷川 潔	コップに挿した種子草	1961
長谷川 潔	小鳥と胡蝶	1961
長谷川 潔	散子独楽と幸福の星	1961
長谷川 潔	飼いやられた小鳥(西洋将棋など)	1962
長谷川 潔	幾何学的錘型と宇宙方程式	1962
長谷川 潔	狐と葡萄(ラ・フォンテーヌ寓話)	1963
長谷川 潔	酒盃の草花	1963
長谷川 潔	小鳥と二つの枯葉	1964
長谷川 潔	砂漠のバラと海の星	1964
長谷川 潔	コップに挿したアンコリの花(過去・現在・未来)	1965
長谷川 潔	メキシコの鳩 静物画	1966
長谷川 潔	ジロスコープのある静物	1966
長谷川 潔	本の上の小鳥 静物画	1967
長谷川 潔	メキシコの種子草 静物画	1967
〈彫刻・立体〉		
舟越 桂	肩で眠る月	1996
<b>展示室8 特集展示 平成10度新収蔵作品展</b>		
〈日本画〉		
菱田 春草	紅葉山水	1908頃
横山 大観	牡丹	1921頃
橋本 関雪	猿猴待月	1938頃

太田 一彩	兎	1940頃
水谷 勇夫	玩具	1960
水谷 勇夫	口上人	1960
水谷 勇夫	担夫	1960
〈絵 画〉		
梅原 龍三郎	横臥裸婦	1908頃
〈水 彩〉		
パウル・クレー	蛾の踊り	1923
〈版 画〉		
ヴァシリイ・カンディンスキー	夕暮れ	1903
ヴァシリイ・カンディンスキー	鏡	1907
<b>ロビーなど</b>		
〈絵 画〉		
エドワード・ジョン・ポインター	世界の若かりし頃	1891
モーリス・ルイス	デルタ・ミュウ	1960-61
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
堀 浩哉	風の音へー84.2	1984
堀 浩哉	水の肌へー84.2	1984
大沼 映夫	二人	1977
〈彫刻・立体〉		
ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	1897

エミール・アントワーン・ブールデル	ペネロープ	1909
エミール・アントワーン・ブールデル	力	1914-15
エミール・アントワーン・ブールデル	勝利	1916
エミール・アントワーン・ブールデル	雄弁	1916
エミール・アントワーン・ブールデル	自由	1916
ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
戸張 孤雁	トルソ	1922
戸張 孤雁	トルソ	制作年不詳
戸張 孤雁	煌めく嫉妬	1924
本郷 新	無辜の民「油田地帯」	1970
加藤 昭男	ツタンカーメンのえんどう豆	1996
千崎 千恵夫	無題	1992
岡本敦生・野田裕示	地殻ー潜むかたち	1996-97
<b>屋外展示スペース</b>		
〈彫刻・立体〉		
コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

## 小企画展(テーマ展示)

### 杉浦邦恵 惹きつけるもの

Photogram Installation by Kunié Sugiura

会 期 1998年6月19日-8月9日

会 場 展示室6

担 当 拝戸雅彦

協 力 Zeit-Foto/中原 洋/鎌倉画廊 (写真提供)

内 容 出品点数：23点

写真の作品をはじめ、絵画や立体作品を制作している杉浦邦恵は1942年名古屋市に生まれた。渡米してシカゴ美術大学に入学、67年にニューヨークに移り住んで以後ニューヨークを中心に多くのグループ展に出品し、90年代に入ってから日本の美術館での重要な写真展に出品し、個展も行っている。

杉浦の写真作品は、カメラのレンズを通さず光源と印画紙との間に「もの」を直接置いて像を得る〈フォトグラム〉の技法によっている。そして彼女のフォトグラムを特徴づけているものに、うなぎやカエル、子猫といった生き物を主題としたシリーズがある。そこでは生き物たちの動きはもとより排泄物なども画面に定着され、作家の手ではコントロールできない偶然的要素が入り込んでいる。さらに杉浦は、そうしてできた複数のイメージを並べインスタレーションとして展開することで、時間の流れを記録し見せることも行っている。

また、生き物のシリーズとは別に、花びらを何本かの糸で結んだ優雅なシリーズがある。本展のタイトルとなった最新作《惹きつけるもの》がそれで、重ね合わせたり規則的に並べられた花びらは明確な輪郭線を持ち、その内側の微妙な濃淡も示されている。

自然の姿を殺すことなくその偶然性をぎりぎりまで尊重し、かつ様式美へと昇華させていく杉浦の近作は、「日本的」ともいえる審美性を、制作プロセスを重視する現代美術の方法と結びつけている点で新しさがあると言えるだろう。

カタログ B5判変形 (25.8×16.9cm) 4色、8ページ

テキスト 拝戸雅彦「杉浦邦恵とフォトグラム」

デザイン：作石敏達

編集発行：愛知県美術館 拝戸雅彦

印 刷：栄印刷



## 企画展

### 川合玉堂展

#### Kawai Gyokudo Retrospective

会期 1998年3月20日(金) - 5月5日(火・祝) 41日間  
主催 愛知県美術館/中日新聞社/東海テレビ放送/東海ラジオ放送  
後援 知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会/JR東海/名古屋鉄道/近畿日本鉄道  
企画協力 玉堂美術館/財団法人玉堂会  
観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円  
(前売り・団体は各200円引)  
担当 深山孝彰/村田真宏

内容 出品点数：103点+スケッチ・下絵等13点

1873(明治6)年愛知県に生まれた川合玉堂は、1907(明治40)年の文展開設時に33歳の最年少で審査員となり、1957(昭和32)年に没するまで、官展系の日本画を代表する存在であった。円山・四条派や狩野派、水墨画などの伝統と近代的な写生感覚を融合させた玉堂は、日本の自然の情趣を最もよく表現した画家と評価されている。この展覧会は玉堂の70年近い画業を回顧したもので、重文指定の《行く春》をはじめとする代表作の殆どを網羅できたことで、親しみやすい穏やかさばかりでなく確かな骨格も具えた玉堂の芸術の精髓を、多くの観覧者に紹介できたと思われる。

展覧会カタログ A4判変形 (27.9×22.6cm) 180ページ

テキスト 川合三男(玉堂美術館館長)「『川合玉堂展』開催に思う」

深山孝彰「川合玉堂 自然と日本絵画への愛」

カタログ (章解説：深山孝彰)

第1章 出発と作風の形成〈明治・大正期〉

第2章 玉堂芸術の確立〈昭和前期〉

第3章 円熟の境地へ〈戦後—奥多摩時代〉

制作 大塚巧藝社

#### 関連事業

講演会 3月21日(土) 「祖父 川合玉堂」

講師 川合三男

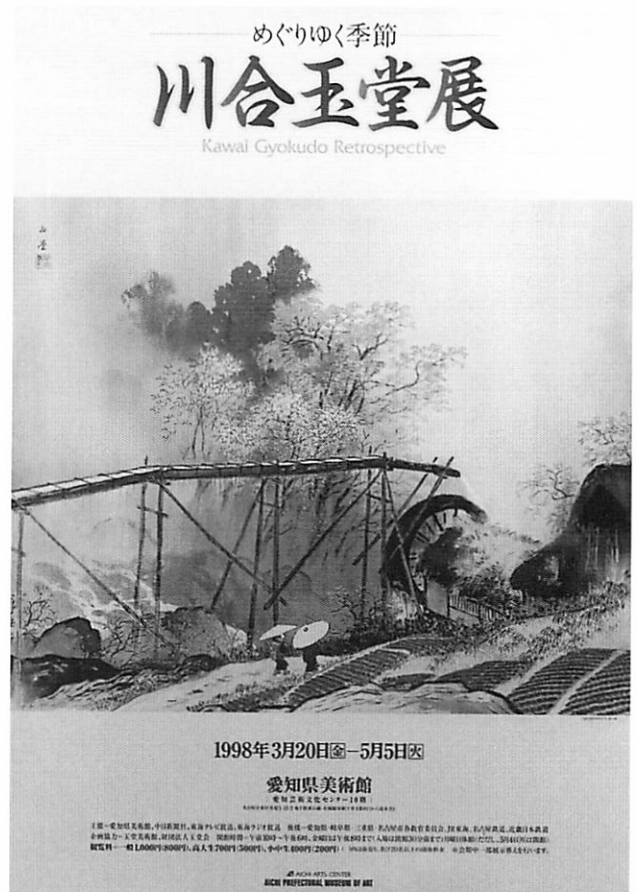
4月11日(土) 「川合玉堂の芸術」

講師 深山孝彰

ギャラリー・トーク

4月4日(土) 担当：村田

4月18日(土) 担当：深山



小・中・高の先生方への展示説明会

4月11日(土) 15:30-16:00

友の会鑑賞会

4月16日(木) 17:00-19:00 講師：深山

総入場者数 70,936人(1日平均入場者数：1,730人)

### 主要関連記事

#### 【定期刊行物】

菅谷淳夫：「サライ美術館 愛知県美術館『川合玉堂展』より

朧なる山里」『サライ』1998年3月19日号 小学館

奥田元宋：「人生そのものが芸術であった玉堂先生」

『新美術新聞』1998年3月21日号

#### 【新聞】

川合三男：「祖父の思い出」『中日新聞』1998年3月11日朝刊

平光明彦：「日本の詩情 川合玉堂展1《冬嶺孤鹿》」

『中日新聞』3月23日夕刊

尾崎正明：「日本の詩情 川合玉堂展2《深林宿雪》」

『中日新聞』3月24日夕刊

奥田元宋：「日本の詩情 川合玉堂展3《彩雨》」

『中日新聞』3月25日夕刊

村田真宏：「日本の詩情 川合玉堂展4《春光》」

『中日新聞』3月26日夕刊

長谷川三郎：「輝き失われぬ風景画」

『日本経済新聞』4月2日夕刊

井上昇治：「移ろう四季 日本の風景 川合玉堂展」

『中日新聞』4月11日夕刊

深山孝彰：「川合玉堂 自然の表現1 水の表現」

『中日新聞』4月14日

深山孝彰：「川合玉堂 自然の表現2 水蒸気の美」

『中日新聞』4月15日

深山孝彰：「川合玉堂 自然の表現3 雲の表現」

『中日新聞』4月16日

深山孝彰：「川合玉堂 自然の表現4 木の表現」

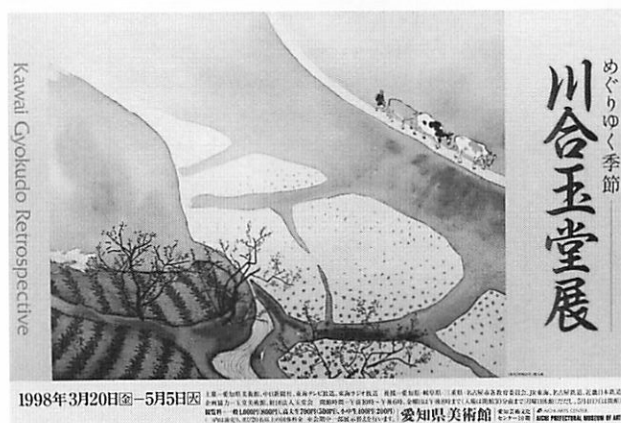
『中日新聞』4月17日

深山孝彰：「川合玉堂 自然の表現5 岩の表現」

『中日新聞』4月19日

井関弘太郎：「玉堂画にみる日本の自然地理」

『中日新聞』4月21日夕刊



# 久野真・庄司達展 —鉄の絵画と布の彫刻— SHIN KUNO & SATORU SHOJI

会期 1998年5月15日（金）—6月7日（日）21日間  
主催 愛知県美術館／朝日新聞社  
後援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会  
協力 JR東海  
観覧料 一般800円、高校・大学生600円、小・中学生400円  
(前売り・団体は各200円引)  
担当 木本文平／高橋秀治

内容 出品点数：久野真レリーフ作品41点、庄司達インスタレーション11点

名古屋を中心とした地域は、今日では現代美術の活動が活発な地域といわれている。この地域の現代美術の活動における代表的な作家、久野真と庄司達を取り上げ、ステンレスを中心とする金属による平面に近い作品を制作してきた久野真と、布や糸、紐などの柔らかな素材を用いた造形によって空間そのものを作品化することで知られる庄司達それぞれの創作活動の初期から現在に至る展開を検証した。

展覧会カタログ A4判変形 (29.8×22.5cm)  
2分冊 (56ページ／80ページ)

テキスト 木本文平 「久野真の作品から」  
高橋秀治 「庄司達の空間」

制作 印象社

## 関連事業

記念シンポジウム 5月17日（土）

演題：「鉄の絵画と布の彫刻—何が変わったのか」

パネリスト：久野真、庄司達、村田慶之輔、中村英樹、  
宮崎保光、木本文平

ギャラリー・トーク

5月16日（土） 担当：木本文平

5月30日（土） 担当：高橋秀治

友の会鑑賞会

5月21日（木） 講師：木本・高橋

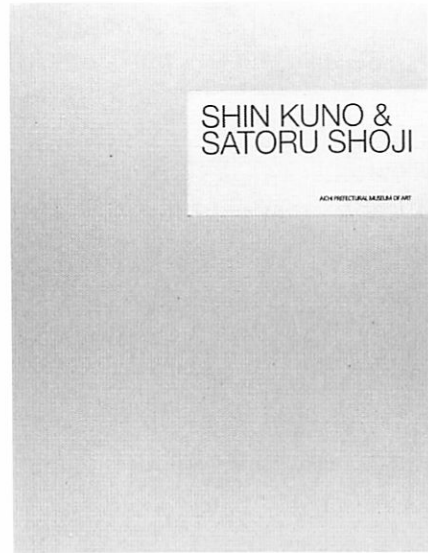
総入場者数 10,236人（1日平均入場者数：487人）



## 主要関連記事

### 【新聞】

- (無記名) 「現代に響く鉄と布のアート」  
『名古屋タイムズ』5月6日夕刊
- 無記名 「鉄と布素材に2作家競演」  
『朝日新聞』5月15日朝刊
- 長谷川三郎 「対照的な個性邂逅」  
『日本経済新聞』5月21日朝刊
- 木本文平 「久野真・庄司達展から 簡素な形に様々な感情」  
『朝日新聞』5月26日夕刊
- (洋) 「国際作家2人を回顧 久野真・庄司達展」  
『読売新聞』5月27日朝刊
- 木本文平 「久野真・庄司達展から 古来の精神世界も暗示」  
『朝日新聞』5月27日夕刊
- 松岡志郎 「柔らかな鉄と硬い布 久野真・庄司達展」  
『毎日新聞』5月29日朝刊
- 木本文平 「久野真・庄司達展から 曲線を使い感性を表現」  
『朝日新聞』5月29日夕刊
- (無記名) 「近況・心境 欠点を楽しみ、魅力を転換」  
『朝日新聞』5月30日朝刊
- 高橋秀治 「久野真・庄司達展から 空間そのものを作品化」  
『朝日新聞』5月30日夕刊
- 高橋秀治 「久野真・庄司達展から 力の連鎖による自然観」  
『朝日新聞』6月3日夕刊



# オルブライト=ノックス美術館展

## MASTERPIECES OF EUROPEAN PAINTING FROM THE ALBRIGHT-KNOX ART GALLERY

会 期 1998年6月19日(金)―8月2日(日) 39日間  
 主 催 愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送  
 後 援 アメリカ大使館／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市  
 各教育委員会  
 協 賛 東京海上  
 協 力 日本貨物航空  
 企画協力 ザ・トラスト・フォー・ミュージアム・エキジビションズ  
 観覧料 一般1,100円、高校・大学生800円、小・中学生500円  
 (前売り・団体は各200円引)  
 担 当 古田浩俊／栗田秀法／藤島美菜

内 容 出品点数：62点

アメリカでも歴史の古い美術館の一つであるオルブライト=ノックス美術館のコレクションの中から、写実主義から印象主義を経てキュビズム、シュルレアリスムに至る19世紀半ばから約100年のヨーロッパ絵画の展開を「写実主義の変容」「印象派を越えて」「形態の分析と造形の詩」「郷愁と夢想」の四つの章に分け、ゴーギャンの《黄色いキリスト》、マティスの《音楽》を含む48人の作家による62点の作品で紹介した。



展覧会カタログ B4判変形 (32.9×23.1cm) 156ページ  
 テキスト ダグラス・G. シュルツ (オルブライト=ノックス美術館館長)「オルブライト=ノックス美術館―その伝統を築いた人々とコレクションの形成」  
 章解説 「Ⅰ 写実主義の変容」 渡辺純子 (ひろしま美術館)  
 「Ⅱ 印象派を越えて」 山口和子 (茨城県近代美術館)  
 「Ⅲ 形態の分析と造形の詩」 古田浩俊  
 「Ⅳ 郷愁と夢想」 栗田秀法  
 作品・作家解説 オルブライト=ノックス美術館

編集 愛知県美術館 (古田・栗田)／東京新聞  
 制作 アイメックス・ファインアート

学校用鑑賞の手引き B5版 (18.3×25.6cm) 8ページ

編集 栗田  
 発行 オルブライト=ノックス美術館展実行委員会

## 関連事業

- 講演会 6月20日(土) 「近代絵画の視点」  
講師：天野知香  
(お茶の水女子大学助教授)
- 講演会 7月4日(土) 「『構成』という物語—キュビズムから抽象へ」  
講師：有川治男(学習院大学教授)

### ギャラリー・トーク

- 6月26日(金) 18:00 担当：栗田
- 6月27日(土) 10:30 担当：栗田
- 7月16日(木) 10:30 担当：古田
- 7月25日(土) 10:30 担当：古田

### 夏休み子供鑑賞会(小学生向け)

- 7月28日(火) 10:30 小学1～3年生対象 担当：藤島
- 7月28日(火) 10:30 小学4～6年生対象 担当：栗田
- 7月30日(木) 10:30 小学1～3年生対象 担当：藤島
- 7月30日(木) 10:30 小学4～6年生対象 担当：古田

### 友の会鑑賞会

- 7月2日(木) 17:00～19:00 講師：長谷川三郎

### 小・中・高の先生方への展示説明会

- 6月20日(土) 15:30～16:00

総入場者数 66,342人(1日平均入場者数：1,701人)

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
伊勢丹美術館	1998年4月16日～6月8日	75,394人	1,539人
ひろしま美術館	1998年8月8日～9月13日	35,216人	952人
茨城県近代美術館	1998年9月19日～11月3日	30,278人	776人

## 主要関連記事

### 【新聞】

長谷川三郎 「収集のお手本—美術史の教科書をめくるよう」 『中日新聞』6月17日

長谷川三郎 「《オルブライト=ノックス美術館展》表現の多様な可能性」

『日本経済新聞』7月2日夕刊

諸川春樹 「ゴッホの『黄色いキリスト』—画家の苦悩投影」 『中日新聞』6月28日

藤島美菜 「ロベール・ドローネー (オルブライト=ノックス美術館展①)」

『中日新聞』7月15日

栗田秀法 「マルク・シャガール (同②)」 『中日新聞』7月16日

栗田秀法 「アンリ・マティス (同③)」 『中日新聞』7月17日

古田浩俊 「トゥールーズ=ロートレック (同④)」 『中日新聞』7月19日

古田浩俊 「フランソワ・ミレー (同⑤)」 『中日新聞』7月25日



MASTERPIECES OF EUROPEAN PAINTING  
FROM THE ALBRIGHT-KNOX ART GALLERY



9月5日(土) 「佐伯祐三とヴラマンク」

講師 浅野徹(名古屋芸術大学教授)

ギャラリー・トーク

8月29日(土) 担当:寺門

9月12日(土) 担当:牧野

友の会鑑賞会

8月20日(木) 講師:牧野



総入場者数 39,972人(1日平均入場者数:1,080人)

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
大阪市立美術館	1998年4月7日-5月17日	80,182人	2,227人
福岡県立美術館	1998年5月23日-6月28日	37,394人	1,168人
宮城県美術館	1998年7月4日-8月9日	15,451人	468人
笠間日動美術館	1998年10月3日-11月3日	18,626人	665人

## 主要関連記事

### 【新聞】

寺門臨太郎「パリ有情.生誕100年佐伯祐三展1、パリ遠望」

『中日新聞』1998年8月17日夕刊

寺門臨太郎「同2、壁」『中日新聞』1998年8月18日夕刊

寺門臨太郎「同3、広告(ヴェルダン)」『中日新聞』1998年8月19日夕刊

牧野研一郎「同4、煉瓦焼」『中日新聞』1998年8月20日夕刊

牧野研一郎「同5、扉」『中日新聞』1998年8月21日夕刊

野見山暁治「佐伯祐三のメガネ」『中日新聞』1998年9月3日夕刊

## アルトゥング展 HANS HARTUNG

会期 1998年10月9日(金)―1998年12月13日(日) 57日間  
主催 愛知県美術館／日本経済新聞社／テレビ愛知  
後援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会  
協力 日本航空  
観覧料 一般1,100円、高校・大学生800円、小・中学生500円  
(前売り・団体は各200円引)  
担当 村上博哉／古田浩俊

内容 出品点数：計145点(絵画57点、素描66点、版画12点、写真10点)

ドイツに生まれ、おもにフランスで活動した画家アンス・アルトゥング(1904-1989)は、1920年代以後一貫して、線描により身振りを刻印する抽象絵画を追求した。本展では、アンス・アルトゥング／アンナ=エヴァ・ベルクマン財団(アンティープ)の所蔵品144点に大原美術館の所蔵品1点を加えた計145点の作品により、初期から最晩年までのアルトゥングの画業を回顧した。

展覧会カタログ B4判変形(31.5×24.5cm) 192ページ  
テキスト ドナルド・カスピット 「アンス・アルトゥング  
―不撓不屈の魂」  
大岡 信 「アルトゥングとアルトゥング財団」  
村上博哉 「アルトゥングへの三度目の接近」

編集・発行 愛知県美術館(村上・古田)  
制作 コギト

### 関連事業

#### 講演会

10月10日(土)「アルトゥング 人と芸術」  
講師：大岡信(詩人)

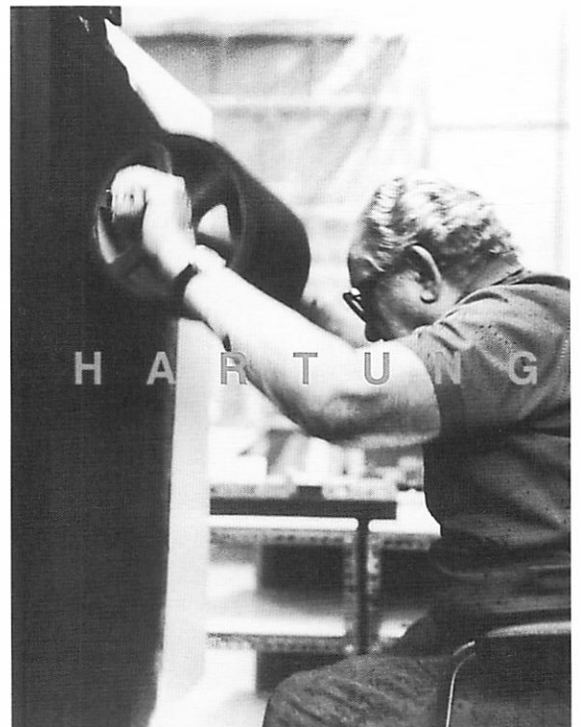
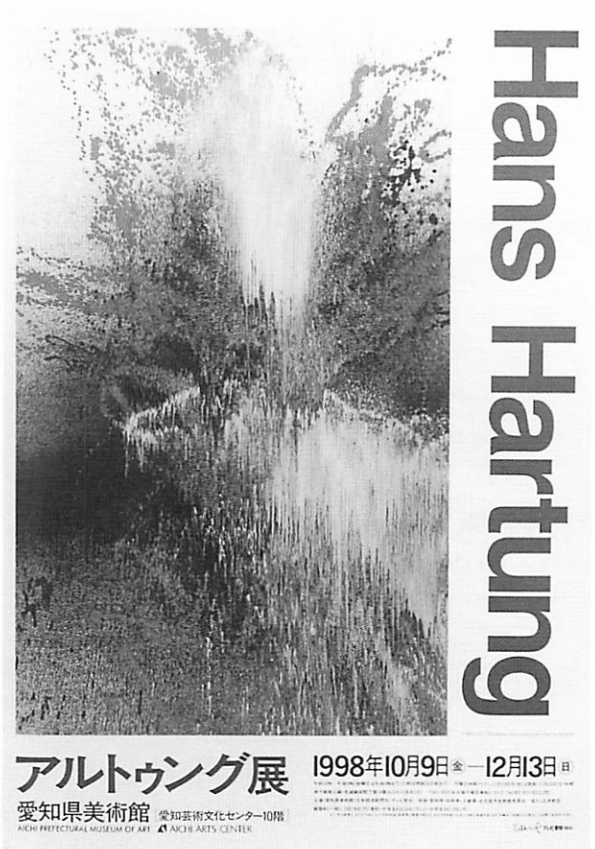
#### ギャラリー・トーク

10月24日(土) 担当：村上  
11月7日(土) 担当：古田  
11月14日(土) 担当：村上

#### 友の会鑑賞会

10月22日(木) 講師：村上

総入場者数 18,845人(1日平均入場者数：331人)  
巡回なし



## 主要関連記事

### 【新聞】

井上隆生 「母国敵にした画家の回顧展」

『朝日新聞』1998年10月17日

(無記名) 「理性際立つアルトゥングの画業回顧」

『日本経済新聞』1998年11月11日

芥川喜好 「彼岸に達した線の光景」

『読売新聞』1998年11月17日夕刊

井上昇治 「繊細な理性がきらめく構成」

『中日新聞』1998年11月26日夕刊

太田垣実 「揺るぎなく強靱な精神」

『京都新聞』1998年12月5日

Julia Cassim, "Celestial musings of a prolific artist", The Japan Times, Nov.29,1998.

Kiyoshi Akutagawa, "Hartung's powerful life, language of lines", The Daily Yomiuri, Dec.1,1998.



## 没後50年 松本竣介展

SHUNSUKE MATSUMOTO:50YEARS LATER

会期 1999年1月8日(金) — 1999年2月21日(日) 39日間

主催 愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送

後援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円  
(前売り・団体は各200円引)

担当 村上博哉／牧野研一郎

内容 出品点数：油彩画91点、素描45点、関連資料34点

十五年戦争の時代に抒情的な都会風景や人物像を描き、戦後まもなく36歳の若さで世を去った松本竣介(1912-1948)の没後50年を記念した回顧展。1935年から1948年までの代表的な油彩画91点(新発見の作品2点を含む)に素描と関連資料を加え、画風の展開をたどるとともに、これまで時代との関わりが強調されてきた戦中期の作品群に関して、新たな視点による解釈の提示を試みた。

展覧会カタログ A4判変形 (29.9×21.1cm) 224ページ

テキスト 佐々木一成「松本竣介 —永遠なるもの—」

村上博哉 「写す画家、松本竣介」

土方明司 「松本竣介の戦後作品について」

編集 練馬区立美術館／

岩手県教育委員会事務局美術館整備室／

愛知県美術館(村上)／岩手日報社／共同通信社

発行 共同通信社

制作 アイメックス・ファインアート

### 関連事業

#### 講演会

1月23日(土)「松本竣介の眼ざし」

講師：田中淳(東京国立文化財研究所美術部第二研究室長)

#### ギャラリー・トーク

1月30日(土) 担当：村上

2月13日(土) 担当：牧野

#### 友の会鑑賞会

1月14日(木) 講師：村上



Shunsuke Matsumoto



総入場者数 24,551人（1日平均入場者数：630人）

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
練馬区立美術館	1998年10月17日～11月29日	19,025人	501人
岩手県民会館	1998年12月4日～12月25日	12,089人	576人

## 主要関連記事

### 【新聞】

- 井上隆生 「音を絵に封じた夭折の画家」  
『朝日新聞』1999年1月9日
- 北川悦吏子 「天に続く道 松本竣介の世界1《郊外》」  
『中日新聞』1999年1月12日夕刊
- 渡辺文雄 「同2《都会》」『中日新聞』1999年1月13日夕刊
- 村上博哉 「同3《画家の像》」  
『中日新聞』1999年1月14日夕刊
- 栗津則雄 「同4《Y市の橋》」  
『中日新聞』1999年1月18日夕刊
- 浅野 徹 「同5《彫刻と女》」  
『中日新聞』1999年1月19日夕刊
- 太田垣実 「暗雲の時代を生きた画家の“真摯な魂”」  
『京都新聞』1999年1月16日
- 生田 誠 「モダンシティの孤独と憂愁」  
『産経新聞』1999年1月17日
- 長谷川三郎 「線描に優れた資質」  
『日本経済新聞』1999年1月28日夕刊
- 山口昌男 「松本竣介の道」『中日新聞』1999年2月16日夕刊



## プッサンとラファエッロ 借用と創造の秘密 POUSSIN and RAPHAEL

会期 1999年3月5日(金) - 4月11日(日) 33日間  
主催 愛知県美術館／中日新聞社  
後援 フランス大使館／ZIP-FM／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会  
協力 日本航空  
助成 (財)花王芸術・科学財団／(財)東洋信託文化財団  
観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円  
(前売り・団体は各200円引)  
担当 栗田秀法／鯨井秀伸

内容 出品点数：版画95点

フランス国立図書館の特別協力を得て、ヨーロッパにおける複製版畫の流布と、絵畫制作における複製版畫の利用の諸相を検証した展覧會。フランス17世紀の畫家ニコラ・プッサンの絵畫を複製した約40点の版畫と、プッサンに着想を与えた版畫、とりわけラファエッロに基づく版畫とを対比した。

展覧會カタログ A4判変形 (29×22.5cm) 200ページ

テキスト 栗田秀法「序論」

栗田秀法

「プッサンとラファエッロ-借用と創造の秘密」

カタログ 旧約聖書、歴史・神話・寓意の主題解説(江尻 潔)

新約聖書の主題解説(鯨井秀伸)

出品作品解説(栗田秀法)

作家解説、技法・用語解説

編集 愛知県美術館(栗田・鯨井)／足利市立美術館

発行 愛知県美術館／中日新聞社

制作 印象社

### 関連事業

記念講演會

3月6日(土)「版畫の多面性—16・17世紀を中心に—」

講師 八重樫春樹(美術史家)

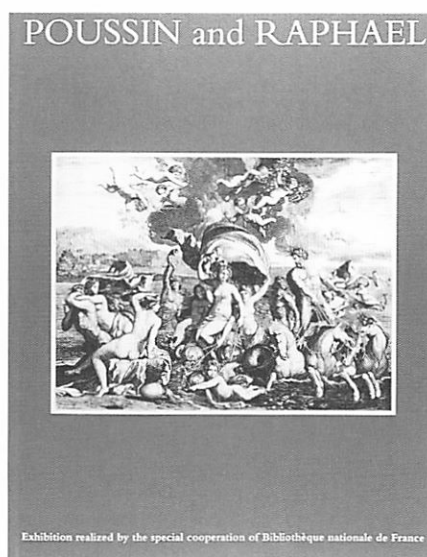
3月13日(土)「ニコラ・プッサンと版畫—《ファレリの教師》を中心に—」

講師 木村三郎(日本大学教授)

ギャラリー・トーク

3月14日(日) 担当：鯨井

3月27日(土) 担当：栗田



## 友の会鑑賞会

3月11日(木) 講師：栗田

総入場者数 13,387人 (1日平均入場者数：406人)

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
足利市立美術館	1999年4月24日～5月30日	3,568人	112人

## 主要関連記事

### 【定期刊行物】

栗田秀法「ブッサンとラファエッロ-借用と創造の秘密：持ち運べる名画」『版画芸術』103(1998) 108-111頁

鯨井秀伸「ラファエッロの〈アテネの学堂〉」『AAC』27(1999)

"La Chronique des Arts : Poussin et Raphaël", *Gazette des Beaux-Arts*, n. 1564-65, 1999, pp. 21-22

福部信敏「〈山巔〉のようなポリュフェモス」『地中会学会会報』225(1999) ,6-7頁

A.Griffiths,"A short note about 'Poussin and Raphael'", *Print Quarterly*, 3 (September 1999) , p. 275

新畑泰秀「展覧会評：ブッサンとラファエッロ」『西洋美術研究』3号(2000)印刷中

### 【新聞】

鯨井秀伸「ブッサンとラファエッロ展(1) マンテーニャ」

『中日新聞』1999年3月13日 朝刊地方版

栗田秀法「同(2) ジョバンニ・ピエトロ・ダ・ピラーゴ」

『中日新聞』1999年3月14日 朝刊地方版

鯨井秀伸「同(3) マルカントニオ・ライモンディ」

『中日新聞』1999年3月16日 朝刊地方版

栗田秀法「同(4) クロディーヌ・ブゾネ=ステラ」

『中日新聞』1999年3月18日 朝刊地方版

長谷川三郎「創作過程の秘密探る：ブッサンとラファエッロ-借用と創造の秘密」

『日本経済新聞』1999年4月1日夕刊

木村三郎「絵画における本歌取り：ブッサンとラファエッロ展から」『中日新聞』1999年4月6日夕刊

江尻潔「ブッサンとラファエッロ(上・中・下)」

『東京新聞』(栃木・群馬版)1999年4月30日、5月1日、5月2日

星雅樹「アート散歩 ブッサンとラファエッロ」

『下野新聞』1999年5月23日

## 移動美術館

教育普及活動の一環として、名古屋地域から遠隔にある県内各地に所蔵作品を移動展示し、併せて講演会等の事業を行う移動美術館を年1回開催している。これは当館と愛知県文化振興事業団および開催市町村との共催によるもので、第1回の南知多町、第2回の足助町、第3回の渥美町、第4回の設楽町に続き、1998年度は吉良町で開催した。

吉良町および近隣の西尾市・一色町・幡豆町などから5,733人の来館者があった（吉良町人口は開催時21,843人）。

名 称：愛知県美術館 平成10年度

移動美術館「美術館がやって来た。」

会 期：1998年10月10日（土・祝）—10月18日（日）

会 場：吉良町農村環境改善センター

主 催：愛知県美術館、愛知県文化振興事業団、吉良町、吉良町教育委員会

観覧料：無料

展示内容ならびに展示点数：

明治から現代にいたる日本の洋画を中心に、海外の作品や彫刻を加えた37点（絵画30点、彫刻7点）を、人物、風景、静物などに分けて展示。

### 〈風景〉

久米桂一郎	秋景	1892
坂本繁二郎	海岸の家	1915
大沢鉦一郎	大曾根風景	1919
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
清水登之	森に憩う人	1929
須田国太郎	樹下	1954
林 武	ノートルダム	1960
牛島憲之	埋もれる舟	1962

### 〈みづかなもの〉

黒田清輝	花と猫	1906
中村 彝	静物	1915
北川民次	南国の花	1940
金山康喜	静物	1956
上田 薫	なま玉子G	1976

### 〈ひと〉

E. J. ボインター	世界の若かりし頃	1891
安井曾太郎	婦人像	1912頃

## 美術館がやって来た。

愛知県美術館所蔵の黒田清輝、北川民次、萩原守衛、ファイニンガーなどの洋画と彫刻約40点



平成10年10月10日（土・祝）—18日（日）

午前9時—午後5時、初日（10日）は午前10時30分から開館、16日は午後9時まで。

吉良町農村環境改善センター

吉良町大字小文字郷前5番地

主催＝愛知県美術館、愛知県文化振興事業団、吉良町、吉良町教育委員会

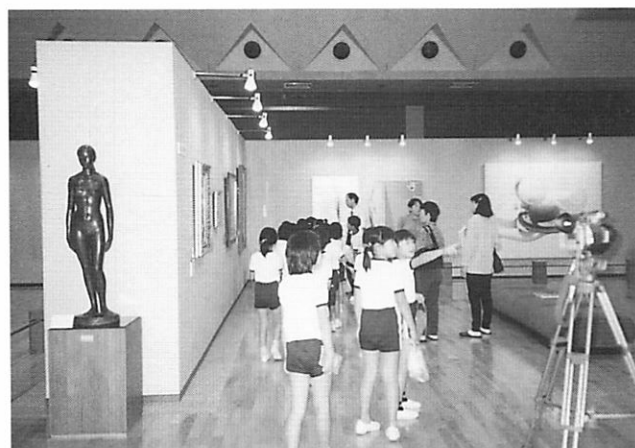
お問い合わせ＝吉良町教育委員会 TEL 0563-32-1111

入場無料

## 愛知県美術館 平成10年度 移動美術館

Selected Works from the Aichi Prefectural Museum of Art

岸田劉生	斎藤与里氏像	1913
宮脇 晴	自画像	1920
里見勝蔵	裸婦	1930
佐分 真	裸婦	1930頃
ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
鬼頭鍋三郎	マドモアゼルM	1954
島海青児	うずくまる	1954
野見山暎治	人(男)	1954頃
三尾公三	FICTION SPACE (X)	1974



会場風景

〈かたちいろいろ〉

村井正誠	Cité B	1940
桂 ゆき	人と魚	1954
瑛九	黄色い花	1957/58
ジョゼフ・アルパース	正方形顔	1962
浅野弥衛	作品(フロッターージュ)	1983
難波田龍起	原初的风景B	1987



展示解説

〈立体〉

荻原守衛	女の胴	1907
中原悌二郎	平櫛田中像	1919
戸張孤雁	煌めく嫉妬	1924
柳原義達	黒人の女	1956
堀内正和	四角と丸の組合せb	1956
本郷 新	無辜の民「油田地帯」	1970
舟越保武	シオン	1979

教育普及事業：

1. 記念講演会：「美術のたのしみ」(長谷川館長)  
10月10日(土・祝) 10：40～12：00
2. 展示解説：(一般対象) 10月11日(日) 深山  
18日(日) 村田 10：30～11：30  
(団体対象) 10月12日から16日まで、吉良町内の  
小中学校、授産施設、保育園の団体  
に実施

# 作品の収集と保存管理

## 作品の収集

### 1 収集方針

- ・20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・現在を刻印するにふさわしい作品
- ・愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

### 2 収集委員会の開催

1998年度は収集委員会を2回開催し、7点の作品を購入、4点の作品の寄贈を受けた。

- ・第1回収集委員会 1998年5月1日
- ・第2回収集委員会 1999年3月2日

### 3 収集の状況

1998年3月末日までの収集の状況（点数）は次のとおり。

### 美術品等収集状況

	97年度までの収集				98年度収集			98年度までの総計		
	愛知県文化会館美術館	新美術館準備	開館後	計	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計
<国内>										
日本画(JJ)	149	45	9	203	3	4	7	136	77	210
洋画(JO)	378	59	35	472	1	0	1	389	84	473
水彩・素描(JO)	309	134	13	456	0	0	0	377	79	456
立体(JS)	23	38	15	76	0	0	0	72	4	76
版画(JP)	101	207	47	355	0	0	0	318	37	355
資料(JM)	4	1	3	8	0	0	0	0	8	8
工芸その他	70	0	0	70	0	0	0	39	31	70
小計	1034	484	122	1640	4	4	8	1331	317	1648
<海外>										
絵画(FO)	15	24	10	49	0	0	0	45	4	49
水彩・素描(FD)	0	4	3	7	1	0	1	8	0	8
立体(FS)	6	13	8	27	0	0	0	25	2	27
版画(FP)	1	65	6	72	2	0	2	73	1	74
インスタレーション(FI)	0	0	2	2	0	0	0	2	0	2
資料(FM)	0	1	1	2	0	0	0	1	1	2
小計	22	107	30	159	3	0	3	154	8	162
合計	1056	591	152	1799	7	4	11	1485	325	1810
藤井達吉コレクション	1460	—	—	—	—	—	—	—	1460	1460
総計	2516	591	152	3259						3270

#### ※表の注記

愛知県文化会館美術館の収集は1987年度まで行われた。新美術館準備のための収集は、愛知県新文化会館建設事務局及び文化振興局において、1987年4月から1992年10月30日の開館まで行われた。開館後の収集とは1993年度以降のものを指す。なお、藤井達吉コレクションとは、愛知県文化会館美術館の開館時（1955年）に藤井達吉氏より寄贈された同氏の作品及び同氏が収集した絵画・工芸などの資料を指す。

# 1998年度新収蔵作品

## [凡例]

・各作品は、JJ(日本画)、JO(洋画)、JP(日本の版画)、JD(日本の水彩・素描)、FO(海外の絵画)、FS(海外の立体)、FP(海外の版画)、FI(海外のインスタレーション)、FM(海外の資料)に分けられたうえで、作家姓の五十音順(日本の作品)ないしはアルファベット順(海外の作品)に配列され、同一作家による複数の作品については、制作年、次いで作品名の五十音ないしはアルファベット順もしくはカタログ・レゾネの番号順に配されている。

・各作品に係る収蔵事項は以下の通り：

作家名 生歿年

作品名

制作年 技法・材質 寸法(タテ×ヨコ(×奥行))

署名、年記

版画の摺番号、もしくは立体の鋳造番号

初出の展覧会

収蔵種別(購入、寄贈等) 所蔵番号

## 国内作家

### 〈日本画〉

菱田春草 1874—1911

HISHIDA, Shunso

#### 紅葉山水

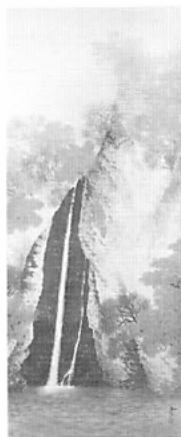
Landscape with Red Leaves

1908年 絹本着色 軸

119.7×50.5cm

右下に落款：春草、朱文長方印「春草」

購入 98-JJ-001



水谷勇夫 1922—

MIZUTANI, Isao

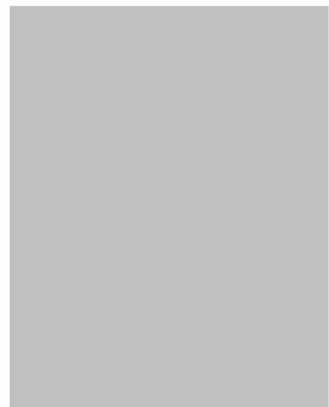
#### 玩具

Toys

1960年 紙本着色 161.8×130.4cm

個展(銀座画廊、1960年)

作者寄贈 98-JJ-004



横山大観 1868—1958

YOKOYAMA, Taikan

#### 牡丹

Peony

1921年 絹本着色、裏箔 軸

142×50cm

左下に落款：大観、白文方印「鉦鼓堂」

購入 98-JJ-002



水谷勇夫 1922—

MIZUTANI, Isao

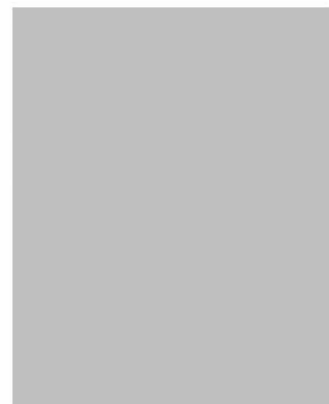
#### 口上人

Talker

1960年 紙本着色 162×130.6cm

個展(銀座画廊、1960年)

作者寄贈 98-JJ-005



太田一彩 1892—78

OTA, Issai

#### 兔

Rabbits

1930年頃 絹本着色二曲一隻屏風

168.6×174.1cm

内田フミ子氏寄贈

98-JJ-003



水谷勇夫 1922—

MIZUTANI, Isao

#### 担夫

Carrier

1960年 紙本着色 193.2×255cm

個展(銀座画廊、1960年)

作者寄贈 98-JJ-006

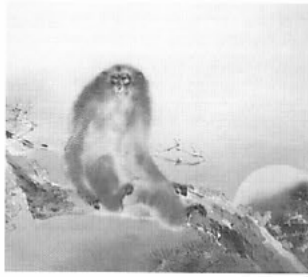


橋本関雪 1883-1945  
HASHIMOTO, Kansetsu

### 猿猴待月

Monkey Waiting for Moonrise

1938年頃 絹本着色 軸  
75.8×87cm  
右下に落款:関雪、朱文長方印「関雪」  
購入 98-JJ-007



カンディンスキー、ヴァシリー 1866-1944  
KANDINSKY, Wassily

### 鏡

The Mirror

1907年 リノカット、紙  
31.9×15.8cm  
右上にモノグラム  
第1ステート  
購入 98-FP-002



## 〈洋画〉

梅原龍三郎 1888-1988  
UMEHARA, Ryuzaburo

### 横臥裸婦

Reclining Nude

1908年 油彩、画布 60.5×72.5cm  
梅原龍三郎油絵展覧会(神田・ウイ  
ナス倶楽部、1913年) no.71  
左上に年記:DES.08  
購入 98-JO-001



## 海外作家

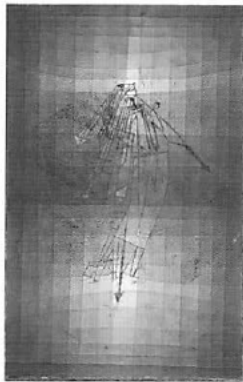
### 〈水彩・素描〉

クレー、パウル 1879-40  
KLEE, Paul

### 蛾の踊り

Dance of Moth

1923年 水彩・油彩・インク、紙  
51.3×33.4cm  
右下に署名:Klee;中央下に年記:  
1923. 124 Nachtfaltertanz  
購入 98-FD-001



## 〈版画〉

カンディンスキー、ヴァシリー 1866-1944  
KANDINSKY, Wassily

### 夕暮れ

Evening

1903年 木版、紙 23.8×13.7cm  
台紙右下に署名:KANDINSKY  
第4(最終)ステート  
購入 98-FP-001



## 保存・修復

展示や貸出に伴う点検に加え、計画的な状態調査によって所蔵作品の保存状態の把握を進め、対策を必要とする作品に処置を行った。修復計画にあたって特殊な知識や技術を要すると判断された作品については、館外の専門家に調査を委託した。また、作品に応じた保存環境の整備と維持管理に努めるとともに、地震の対策処置を進めた。

### 1998年度の活動概要

#### ア 所蔵作品の状態調査

- ・状態調査作品 67点
- ・状態調査委託作品 3点

#### イ 所蔵作品の保存処置等

- ・保存処置作品 26点（うち委託 3点）
- ・新規額・保存箱の製作 14組（17点）

#### ウ 保存環境の整備

- ・虫菌害対策として2度のモニタリングを行い、脱酸素処理3点、燻蒸車燻蒸（エキボン）1回、展示室のブンガノン燻蒸を実施

#### エ 美術館の防災に関する調査研究及び防災対策の実施

- ・彫刻展示免震台座（汎用）の作製
- ・美術館ロビー窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付

### 状態調査委託作品一覧

No.	作家名	作品名	制作年	技法材料	調査目的	調査者
1	ハウル・クレー	女の館	1921	油彩、厚紙	修復計画	浅井千晴
2	ジョアン・ミロ	絵画	1925	油彩、画布	修復計画	浅井千晴
3	森村宜稲	四季草花図	大正末	絹本着色、金箔 六曲一雙屏風	修復計画	田中墨神堂

### 保存処置作品一覧

No.	作家名	作品名(技法材料)	種別	修復前の状態	修復内容	処置者
1	伊東深水	大島の黎明 (紙本着色、軸)	日本画	不適切な表装	再表具（衣装替え）	田中墨神堂
2 1 20	アンドリュウ・ワイエス	寄託品19点 (水彩、紙)	絵画	旧テープ跡による支持体の変形	残留の接着剤除去 改造マットにヒンジ留め	長屋 (館内処置)
21	荒川修作	それはそのままに (リトグラフ・紙)	版画	旧テープ跡によるつれ皺	残留の接着剤除去	長屋 (館内処置)
22	伊勢正義	鳩と少年 (油彩、画布)	洋画	表面の著しい汚れ	洗浄（水のみ）	長屋 (館内処置)
23	四方れい	池 (油彩、画布)	洋画	掻き傷およびその周辺の剥離、剥落	ゼラチンによる剥落留め	長屋 (館内処置)
24	森村宜稲	四季草花図 (絹本着色、金箔六曲一雙屏風)	日本画	絵具の剥離、剥落	ゼラチンによる剥落留め (含ox gall)	森 京子 (館内処置)
25	川崎小虎	四季草花野菜絵巻 (紙本着色、卷子四卷)	日本画	絵具の剥離、剥落	ゼラチンによる剥落留め	長屋 (館内処置)
26	水谷勇夫	担夫 (紙本着色)	日本画	本紙のみの寄贈、肌裏の浮き、継ぎ目の糊離れ	肌裏に正麩糊を足し、新パネ ルに張り込み。糊離れの接着	家田文章堂 (館内処置)

## 新規額・保存箱製作作品一覧

No.	作家名	作品名	制作年	技法材料	理由
1	パウル・クレー	女の館	1921	油彩、厚紙	鑑賞上の理由
2	小川 芋銭	陶淵明桃花源詩意	1926頃	絹本着色	軸作品の巻きの緩和の為、太巻き軸と桐の収納箱(印籠箱もしくは台差箱)を作製、以下同じ
3	鏑木 清方	蛭	1938	絹本着色	
4	川合 玉堂	湖畔晚帰	1928	絹本着色	
5	川崎 小虎	四季草花野菜絵巻 (全4巻)	1945頃	絹本着色	
6	土田 麦僊	南国早春	1914-16	絹本着色	
7	橋本 雅邦	秋景山水図	1887	紙本墨画淡彩	
8	菱田 春草	紅葉山水	1908頃	絹本着色	
9	前田 青邨	雨の蘇州	1919頃	紙本着色	
10	前田 青邨	稚児文殊	1946頃	紙本着色	
11	村上 華岳	梅溪山道	1914	絹本着色	
12	山元 春挙	溪村暮靄図	1900頃	絹本墨画淡彩	
13	横山 大観	飛泉	1900頃	絹本着色	
14	横山 大観	牡丹	1921	絹本着色、裏箔	

## 所蔵作品の貸出

### 1998年度の貸出状況

国内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、  
 展覧会の内容とその意義、当該作品の保存状態、所蔵作品展の  
 展示計画などを十分に考慮し、愛知県美術館所蔵作品貸出要領  
 に則って作品の貸出を行った。

### 貸出の概要

	分野	点数
国内作家	日本画	26点
	洋画	48点
	素描水彩	11点
	立体	5点
	資材	2点
	藤井達吉	50点
海外作家	絵画	6点
	立体	2点
	版画	1点
計 (44件分)		151点

### 貸出作品一覧

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
1. 藤井達吉	桜図屏風	1998.4.2 - 4.28	藤井達吉の世界	碧南市文化会館
藤井達吉	舞鶴草屏風			
藤井達吉	扇面流し屏風			
藤井達吉	墨絵・松屏風			
藤井達吉	継色紙風屏風			
藤井達吉	山芍薬			
藤井達吉	木版あざみ			
藤井達吉	ひかげのつつじ			
藤井達吉	葡萄ともみじ			
藤井達吉	あざみ			
藤井達吉	春の朝明			
藤井達吉	海辺の月			
藤井達吉	れいし			
藤井達吉	柳			
藤井達吉	山草図			
藤井達吉	日の出			
藤井達吉	土佐の海			
藤井達吉	出現 (日の出・富士)			
藤井達吉	雨 (小鳥)			
藤井達吉	朝映			
藤井達吉	夢に見し山			
藤井達吉	雨の音			
藤井達吉	雪渡			
藤井達吉	吹雪			
藤井達吉	草花 (トキゴトニ...)			
藤井達吉	やまかげ (やまふかく...)			
藤井達吉	日の出 (ハルキスト...)			



No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
5. 長谷川利行	酒売場	1998.5.13 - 9.23	モボ・モガ1910-1935	神奈川県立近代美術館 ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館（オーストラリア、シドニー）
小林古径	洗濯場 その1			
小林古径	洗濯場 その2			
前田青邨	雨の蘇州			
6. 高田誠 野間仁根	アルプスの雨後 松原湖畔よりハヶ岳を望む	1998.7.8 - 8.28	信州の風景画名作展	長野県信濃美術館
7. サム・フランシス 工藤哲巳	消失にむかう地点の青 果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン—予定化された未来と固定化された過去の間の瞑想	1998.7.23 - 9.29	瀧口修造とその周辺	国立国際美術館
8. 田淵俊夫 田淵俊夫	青木ヶ原 すぎばやし	1998.7.29 - 9.9	田淵俊夫展	セレネ美術館
9. 岡鹿之助	窓	1998.8.6 - 11.19	岡鹿之助展	京都国立近代美術館 福島県立美術館
10. 橋本雅邦	秋景山水図	1998.8.18 - 9.15	近世絵画の基調 —狩野派の三百年—	東京都江戸東京博物館
11. 福沢一郎	海	1998.9.2 - 10.29	生誕100年記念福沢一郎展	富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館
福沢一郎	鍋釜地獄			
福沢一郎	餓鬼			
福沢一郎	雨炎火石地獄			
福沢一郎	黒縄地獄			
福沢一郎	等活地獄（A）			
福沢一郎	等活地獄（B）			
福沢一郎	大地の果て—根室にて			
12. パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	1998.9.3 - 12.7	ピカソ展	名古屋市美術館
13. 小磯良平	室内(A)	1998.9.7 - 11.13	没後10年小磯良平展	神戸市立小磯良平記念美術館
14. 土谷武	植物空間	1998.9.10 - 1999.5.18	土谷武展	東京国立近代美術館 京都国立近代美術館 茨城県近代美術館

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
15. 戸張孤雁	おなご	1998.9.19 - 11.9	アトリエの展覧会<五人の彫塑家展 一碌山・光太郎・文夫・孤雁・悌 二郎->	朝倉彫塑館アトリエ
戸張孤雁 中原悌二郎	立てる女 憩える女			
16. 小松均	富士山 (上)	1998.9.25 - 10.28	日本美術院創立百年記念一院展に みる山形の美術100年	致道美術館 山形美術館
小松均 今野忠一	富士山 (下) 妙義			
17. 青木繁	太田の森	1998.9.25 - 11.27	意味とイメージあらわれる浪漫 主義の明治	和歌山県立近代美術館
山本芳翠 安井曾太郎 安井曾太郎 藤島武二 藤島武二 藤島武二 藤島武二	西洋裸婦 風景 静物 音楽 宝蔵擁護 池のほとり 近代の親方			
18. 松本竣介	ニコライ堂	1998.10.1 - 1999.2.22	松本竣介展	練馬区立美術館 岩手県民会館 愛知県美術館
19. 国吉康雄 清水登之	帽子の女 建築現場	1998.10.1 - 1999.2.22	松本竣介・野田英夫の友人たち	大川美術館
20. 小林和作 小林和作	薔薇咲くカブリ島 通り雨	1998.10.8 - 12.3	小林和作展	尾道市立美術館
21. 荻須高德	サン・ドニ	1998.10.14 - 12.23	荻須高德と猪熊弦一郎	丸亀市猪熊弦一郎現代美 術館
22. 鬨光	編み物をする女	1998.10.14 - 11.15	鬨光展	小田急美術館、 東京・新宿
23. 安井曾太郎	承德**廟	1998.10.14 - 11.5	生誕110年記念安井曾太郎展	京都高島屋
24. 佐分真 佐分真	裸婦 アパッシュ・シャルポニエ	1998.10.15 - 12.8	画家たちの巴里-伊原宇三郎 ・佐分真・渡辺浩三	日立市郷土博物館

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
25. 吉田善彦	雨余桂林	1998.10.16 - 12.10	吉田善彦展	世田谷美術館
26. 三岸節子	魚とインカの壺	1998.10.27 - 12.24	尾西市三岸節子記念美術館開館 記念 三岸節子ー生きた・描い た・愛したー	西市三岸節子記念美術館
三岸節子	シャトー・カルカッソン			
三岸節子	らくがき			
27. 三上誠	経絡万華経	1998.11.3 - 12.17	戦後日本画の歩み	鳥取県立博物館
広田多津	舞妓			
加藤東一	伝承			
北沢映月	朧(憩の阿国)			
工藤甲人	坐忘			
竹内浩一	風			
28. 黒田清輝	暖き日	1998.11.17 - 1999.1.23	近代日本の美術ー洋画家・ 日本画家たちの模索と展開ー	愛媛県立美術館
橋本雅邦	秋景山水			
山元春拳	溪村暮靄図			
横山大観	飛泉			
29. 河野通勢	自画像	1998.12.2 - 1999.1.20	河野通勢展	東京ステーション ギャラリー
木村莊八	壺を持つ女			
30. 島田章三	石庭女人図	1998.12.10 - 1999.5.20	島田章三展	三重県立美術館 笠間日動美術館 平塚市美術館
島田章三	植物園B			
島田章三	スザンナの部屋			
31. アレクサンダー・ アーキベンコ	歩く女	1999.1.21 - 3.11	エコール・ド・パリの異邦人 ーバスキンを中心にー	稲沢市荻須記念美術館
オシップ・ザッキン	チェロのトルソ			
アーキベンコ				
32. アンリ・マティス	待つ	1999.1.21 - 3.11	20世紀の扉展	香川県文化会館
フランティシェク・クブカ	灰色と金色の展開			
レクサンダー・アーキベンコ	歩く女			
33. 長原孝太郎	山村	1999.1.30 - 3.17	日本の印象派	下関市立美術館
加藤静児	渚			

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
34. 岸田劉生	蓑	1999.2.15 - 3.15	狩り劉生	町立久万美術館
35. 山下新太郎 岸田劉生 小出楯重	白耳義の少女 高須光治君之肖像 N婦人像	1999.2.17 - 3.31	もうひとつの美術史—画家と額縁	西宮市大谷記念美術館
36. フェルナン・レジェ	サーカス(カラー図版35点)	1999.2.18 - 4.15	サーカス・ファンタジア	メナード美術館
37. 杉全直 杉全直 杉全直	窪んだ空間B 或る地点の記録(5) 或る地点の記録(13)	1999.2.27 - 9.10	杉全直展	姫路市立美術館
38. 中村岳陵	芦に白鷺鶴鶴図	1999.3.1 - 3.17	中村岳陵展	名古屋松坂屋美術館
39. 竹内浩一  竹内浩一	雨まじか  風	1999.3.5 - 4.27	竹内浩一展	松屋(銀座) 大丸ミュージアム(京都)
40. アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1999.3.9 - 7.2	Amadeo Modigliani	Museo d'Arte Moderna, Citta di Lugano
41. 嶋谷自然  嶋谷自然	緑影  阿蘇	1999.3.11 - 3.30	嶋谷自然・奥山芳泉と三重の 日本画家展	三重県文化会館
42. 大沢鉦一郎 大沢鉦一郎 大沢鉦一郎 大沢鉦一郎 大沢鉦一郎	大曾根風景 自画像 ジンベを着た少女 少女海水浴 少女海水浴下絵II	1999.3.16 - 5.7	大沢鉦一郎展	知多市民俗資料館
43. 脇田和	黄色い鳥	1999.3.25 - 6.10	脇田和	神戸市立小磯記念美術館
44. 守屋多々志  守屋多々志	大原寂光  大原寂光	1999.3.26 - 6.2	近代美術の精華— 日本美術院創立100周年記念展	高松市美術館 岡山県立美術館

## 1. 出版・発行

### 1998年度の発行物

・企画展カタログ	7 企画展ごと各種
・企画展鑑賞の手引き	
《川合玉堂展》(主要作品約50点の解説)	A4判4ページ
《久野真・庄司達展》(各章解説、略年譜)	A4判4ページ
《オルブライト＝ノックス美術館展》(作品5点の解説と設問ほか)	B5判4色8ページ
《佐伯祐三展》(主要作品10点の解説)	B4判4色三つ折り
《アルトゥング展》(全体案内、各章解説、作品リスト、年譜)	A4判8ページ
《松本竣介展》(各章解説と年譜)	A4判2ページ
《ブッサンとラファエッロ借用と創造の秘密ー》(主題解説)	A4判8ページ
・所蔵作品展 作品リスト・各展示室の解説	B5判2～4ページ
・小企画展(テーマ展)『杉浦邦恵 惹きつけるもの』	B5判変型4色8ページ
・『1997-98年度 新収蔵作品目録』	A5判16ページ
・小学1～3年生向ワークシート	
『なんごくのはな きたがわたみじ作』	三つ折り14×14cm
『ポーランドのきし エルンスト作』	三つ折り14×14cm
・『愛知県美術館研究紀要』第5号	B5判56ページ
・『愛知県美術館年報』6 1997年度版	A4版74ページ
・1999年度 展覧会スケジュール(日本語版・英語版)	各A4版変形三つ折り

## 2. 講演会・講座・シンポジウム等

### 1998年度企画展関連の講演会／シンポジウム

#### 川合玉堂展：

「祖父川合玉堂」 川合三男(玉堂美術館館長)	3月21日(土) 175人
「川合玉堂の芸術」 深山孝彰(愛知県美術館学芸員)	4月11日(土) 150人

#### 久野真・庄司達展：

記念シンポジウム「鉄の絵画と布の彫刻—何が変わったのか」 久野真、庄司達、中村英樹(名古屋造形芸術大学教授)、 宮崎保光(豊橋技術科学大学教授)、村田慶之輔(美術評論家)、 木本文平(愛知県美術館企画普及課長)	5月17日(土) 158人
--	------------------

#### オルブライト＝ノックス美術館展：

「近代絵画の視点」 天野知香(お茶の水女子大学助教授)	6月20日(土) 168人
「『構成』という物語—キュビズムから抽象へ」 有川治男(学習院大学教授)	7月4日(土) 150人

#### 佐伯祐三展：

「佐伯祐三の日本逸脱」 原田光(神奈川県立近代美術館主任学芸員)	8月22日(土) 195人
「佐伯祐三とヴラマンク」 浅野徹(名古屋芸術大学教授)	9月5日(土) 198人

#### アルトゥング展：

「アルトゥング人と芸術」 大岡信(詩人)	10月10日(土) 105人
-------------------------	-------------------

#### 松本竣介展：

「松本竣介の眼ざし」 田中淳(東京国立文化財研究所美術部第二研究室長)	1月23日(土) 167人
--	------------------

#### ブッサンとラファエッロ展：

「版画の多面性—16・17世紀を中心に」 八重樫春樹(美術史家)	3月6日(土) 84人
「ニコラ・ブッサンと版画—〈フェレリの教師〉を中心に—」 木村三郎(日本大学教授)	3月13日(土) 110人

### 1998年度連続講座「古代の美術－世界美術の起源－」

タイトル	講師	開催日	参加人数
ギリシアの美術 －美しい人間の形－	中山典夫 (筑波大学教授)	3月18日	155人
インドの美術 －自然・生命・人体－	宮治昭 (名古屋大学教授)	3月19日	130人
メソポタミアの美術にみる 神、人、王	松島英子 (中京女子大学教授)	3月25日	136人
エジプトの美術 －〈二つのナイル〉を読む－	鈴木まどか (比治山大学教授)	3月26日	156人

※「ギリシアの美術」は愛知県美術館友の会主催により開催した。

### 3. ギャラリートーク

展覧会	開催日	参加者数
川合玉堂展	4月4日	23人
	4月18日	30人
久野真・庄司達展	5月16日	18人
	5月30日	20人
オルブライト＝ノックス美術館展	6月26日	20人
	6月27日	25人
	7月16日	25人
	7月25日	30人
佐伯祐三展	8月29日	19人
	9月12日	40人
アルトゥング展	10月24日	20人
	11月7日	20人
	11月14日	10人
松本竣介展	1月30日	30人
	2月13日	26人
プッサンとラファエッロ	3月14日	22人
	3月27日	23人

\* ギャラリートークの聴講者数は概数（聴講券発行は毎回15枚）

### 4 各種鑑賞プログラム

#### (1) 学校教師を対象とした企画展説明会

学校教育と美術館教育との連携をはかり、学校の授業や見学会などで役立ててもらうことを意図して、小・中・高校の先生（美術担当に限らない）を対象とした企画展の説明会を行っている。

展覧会	開催日	参加者数
川合玉堂展	4月11日	10人
久野真・庄司達展	5月17日	19人
オルブライト＝ノックス美術館展	6月20日	29人
佐伯祐三展	8月22日	20人
アルトゥング展	10月10日	13人
松本竣介展	1月23日	18人
プッサンとラファエッロ	3月6日	19人

## (2) 子供を対象とした鑑賞教育

所蔵作品展観の小・中・高校生にワークシートを配布するとともに、小・中学生を対象とした子供鑑賞会を計画的に行った。また、企画展「オルブライト＝ノックス美術館展」にあわせ「夏休み子供鑑賞会」を行った。

展覧会	開催日	対象	参加者数
オルブライト＝ノックス美術館展	7月28日	小1～小3	23人
		小4～小6	22人
	7月30日	小1～小3	10人
		小4～小6	17人



## (3) 「視覚に障害のある方へのプログラム」の開催

「名古屋YWCA 美術ガイドボランティアグループ」の協力により、「視覚に障害のある方へのプログラム」を開催した。内容は学芸員によるガイダンス・作品説明と、ガイドボランティアの案内による鑑賞会で、いくつかの重要な作品には大きな文字と点字による解説書や、図柄に触れてなぞることのできる立体コピーを用いた。

開催日	参加者	午前、午後の内訳
11月19日	16人	午前：11人 午後：5人
11月26日	10人	午前：10人
2月18日	16人	午前：6人 午後：10人



小学1～3年生向ワークシート

## 5 ビデオテーク

10階ビデオテークでは、所蔵作品や展覧会内容に即した番組を提供して、また主要な所蔵作品の画像と文字情報が自由に引き出せる検索型のシステムを運用している。1998年度は次の改良を行った。

- ・番組選択システムの改良…紙のメニューとテンキーによる方式から、タッチパネルに変更。
- ・提供番組の拡大……………愛知芸術文化センターの映像情報システムとの連動により、最新の展示案内映像や情報を提供可能とした。

## 6 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習について、1998年度は16名の実習生を受け入れ指導を行った。

### 実習実施期間

7月27日(月)～31日(金) 5日間

### 実習内容

総論、美術館の概説と施設見学、開館・閉館業務立ち会い、作品貸出立ち会い

課題（企画展案・鑑賞ワークシートやガイド・教育普及事業案のうち1つを作成）の研究と発表

収集と所蔵作品展について、企画展の進行について、美術館教育について、夏休み子供鑑賞会見学

美術品の保存について、作品の取り扱い、作品の状態調査、屋外彫刻のメンテナンス、彫刻の照明と撮影

実習生

氏名	大学、専攻等
荒木和代	東海女子大学文学部美学美術史学科
伊藤綾野	大阪芸術大学美術学科絵画コース
大久保倫子	中京女子大学人文学部アジア文化学科
大熊知恵	東北芸術工科大学文化財保存学科
小椋麻子	三重大学人文学部ヨーロッパ地中海文化コース
佐久間真人	名古屋芸術大学美術学部洋画コース
櫻井靖子	武蔵野美術大学造形学部油絵学科
志水明子	愛知県立芸術大学美術学部油画科
神藤 恵	東京学芸大学教育学部美術専攻
杉山陽子	名古屋芸術大学美術学部洋画コース
長谷川陽子	大阪芸術大学音楽学科音楽文化コース
東出紀子	都留文科大学比較文化学科
廣田和泉	東京工芸大学芸術学部写真学科
藤本恭枝	名古屋芸術大学美術学部洋画コース
松原良子	名古屋芸術大学美術学部日本画コース
宮原靖枝	愛知県立芸術大学音楽学部

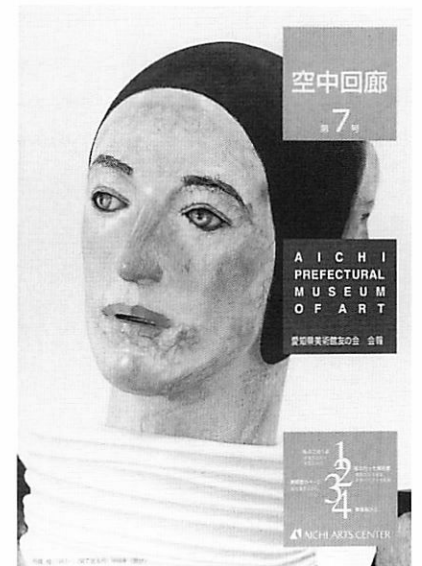
8. 友の会の運営協力

美術館活動を支援するとともに、会員の美術に関する教養を高め美術文化の向上に貢献することを目的とする「愛知県美術館友の会」の運営に協力し、各事業を展開している。

愛知県美術館友の会

会員数：

年度	総数	一般会員		特別会員		総数の男女別内訳		
		区別なし	内学生	個人	団体	男性	女性	団体
1994年度	250	224		24	2	113	135	2
1995年度	350	322	48	27	1	163	186	1
1996年度	381	353	73	27	1	173	207	1
1997年度	446	416	99	25	2	200	244	2
1998年度	420	394	77	24	2	184	234	2



会報 7号

1998年度事業概要：

・企画展鑑賞会

企画展ごとに、友の会会員のみを対象に担当学芸員によるスライド・レクチャーを行い、引き続いて閉館後の展示室で学芸員とともに鑑賞する会を開催している。

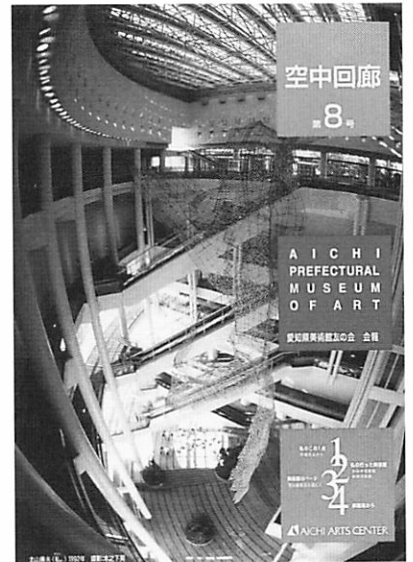
- 1998年4月16日 「川合玉堂展」鑑賞会（75名）
- 5月21日 「久野真・庄司達」展鑑賞会（49名）
- 7月1日 「オルブライト＝ノックス美術館展」鑑賞会（83名）
- 8月20日 「佐伯祐三展」鑑賞会（70名）
- 10月22日 「アルトゥング展」鑑賞会（62名）
- 1999年1月14日 「松本竣介展」鑑賞会（63名）
- 3月11日 「プッサンとラファエッロ」展鑑賞会（120名）

・懇親会チェンバロ・コンサート

会員の交流と新会員の勧誘のを目的に、チェンバロ・コンサートを開催した。

1999年3月11日 「プッサンとラファエッロ」展鑑賞会後 10階美術館ロビー

チェンバロ演奏＝戸崎廣乃 楽器製作・提供＝安達正浩



会報 8号



・広報事業

会報『空中回廊』の発行：第7号（1999年1月）、第8号（1999年3月）

編集(会員)＝宮崎玲子、杉山博之、伊藤淳子、中野ともみ、村山るみ、森健二

編集協力＝愛知県美術館企画普及課

企画展ポスター、チラシ等の宣伝材料の配布

## 1998年度の調査研究実績

当館および他の美術館や博物館の活動に関するもの、公的助成による研究、学術雑誌や学会等での発表に限定して記載し、一般の新聞・雑誌・画集・画廊カタログ等への寄稿（評論・解説・批評等）、および大学や市民講座・テレビ・ラジオ等での講義・講演等は除いている。

### ア 所蔵作品等に関すること

- ・寺門臨太郎 「パウル・クレー《蛾の踊り》」『愛知県美術館研究紀要』第5号(1999年3月)

### イ 企画展に関すること

- ・深山孝彰 「川合玉堂 自然と日本絵画への愛」[章解説]『川合玉堂関係文献』『川合玉堂展』(1998年3月)
- ・木本文平 「久野真の作品から」『久野真年譜』『久野真・庄司達展』(1998年5月)
- ・高橋秀治 「庄司達の空間」『庄司達年譜』同上
- ・古田浩俊 「形態の分析と造形の詩」『オルブライト=ノックス美術館展』(1998年4月)
- ・栗田秀法 「郷愁と夢想」同上
- ・牧野研一郎 「佐伯祐三 初期作品に関するノート」[章解説]『作品解説』『生誕100年記念 佐伯祐三展』(1998年4月)
- ・寺門臨太郎 「作品解説」同上
- ・挿戸雅彦 「杉浦邦恵とフォトグラム」『杉浦邦恵 惹きつけるもの』(1998年6月)
- ・村上博哉 「アルトゥングへの三度目の接近」『アルトゥング展』(1998年10月)
- ・村上博哉 「写す画家、松本竣介」『没後50年 松本竣介』(1998年10月)
- ・栗田秀法 「序論」『プッサンとラファエッロ 借用と創造の秘密』『プッサンとラファエッロ 借用と創造の秘密』(1999年3月)
- ・鯨井秀伸 「作家解説」同上

### ウ 作品の保存に関すること

- ・長屋菜津子 「愛知県美術館のファシリティレポートと施設概要」(1999年1月22日、全国美術館会議保存ワーキンググループ第14回会合にて報告)
- ・長屋菜津子 「愛知県美術館の試みくファシリティレポートについて」(1999年3月17日、愛知県博物館協会主催 学芸員研修会美術部門にて報告)

### エ アート・ドキュメンテーションに関すること

- ・鯨井秀伸 「インデックスについて」『愛知県美術館研究紀要』第5号(1999年3月)

### オ その他

- ・栗田秀法 "A visual source for Poussin's "Sts Peters and John healing the lame man" ", Burlington Magazine, CXL (1998) , november, pp.747-748.
- ・寺門臨太郎 「未公開資料—仲田定之助のベルリン日記(上)」『現代芸術研究』第2号(筑波大学芸術学系五十殿研究室、1998年12月)
- ・長谷川三郎、村田真宏、深山孝彰ほか共同研究 「彫刻原型の管理および鑄造に関する問題」(全国美術館会議ワーキンググループ)
- ・深山孝彰 「日本美術院所在 新発見の戸張孤雁資料調査」1998年1月実施(碓山美術館千田敬一学芸員との共同研究、鹿島美術財団の助成による)
- ・深山孝彰 「大澤鉦一郎の絵画世界」『大澤鉦一郎展』(知多市歴史民俗博物館、1999年3月)
- ・村田真宏 「ニューヨーク、アート・スチューデント・リーグに学んだ日本人美術家たち」1998年12月、現地調査実施(鹿島美術財団の助成による)
- ・雪山行二 「ゴヤ、版画にみる時代と独創—序文」、作品解説『ゴヤ、版画にみる時代と独創』(国立西洋美術館、1999年1月)
- ・木本文平 「寛忠治—画家としての歩み—」『寛忠治』(刈谷市美術館、1998年4月)
- ・木本文平 「藤井達吉の世界展によせて」『藤井達吉の世界—郷土が生んだ近代工芸の先駆者—』(碧南市、1998年4月)

# ギャラリー(貸館)

「愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領」にもとづき、8階の展示室A～J（全10室）を各種公募展・団体展等の利用に供している。1998年の利用申込みは186件あり、利用調整の結果173件の展覧会が開催され、60万8千人余の入場者があった。なお、1992年の開館以来利用率は100%である。

## 1998年のギャラリー利用状況

### 1 展示室利用状況

(単位：日数)

区分 月別	利用 可能 日数 a	利用 可能 日数 b	利用 率 b/a	展示室別利用日数										審査保管室		
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	第1	第2	
				1998年1月	23	23	100.0	23	23	23	23	23	23	23	23	23
2月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	0	7
3月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	2	13
4月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	9	20
5月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	15	6
6月	21	21	100.0	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	9	15
7月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	2	5
8月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	18	23
9月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	21	24
10月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	15	10
11月	25	25	100.0	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	9	2
12月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	0	0
計	302	302	100.0												109	141

### 2 展覧会種別利用状況及び入場者数

区分 月別	展示会種別利用件数(件)								入場者数 (人)
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	
1998年1月	3	6	0	1	3	0	0	13	160,134
2月	0	1	0	0	2	1	0	4	15,007
3月	5	6	0	1	4	2	1	19	50,035
4月	4	4	0	1	3	0	0	12	43,681
5月	3	5	2	1	3	0	0	14	44,091
6月	3	5	1	0	2	0	0	11	29,361
7月	8	6	0	2	5	0	3	24	46,308
8月	6	2	0	1	2	0	0	11	47,956
9月	7	9	0	1	3	0	2	22	54,369
10月	5	5	0	0	3	2	0	15	48,039
11月	4	5	0	2	2	0	0	13	33,296
12月	7	4	0	0	4	0	0	15	36,484
計	55	58	3	10	36	5	6	173	608,761

(注) 利用件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理した。

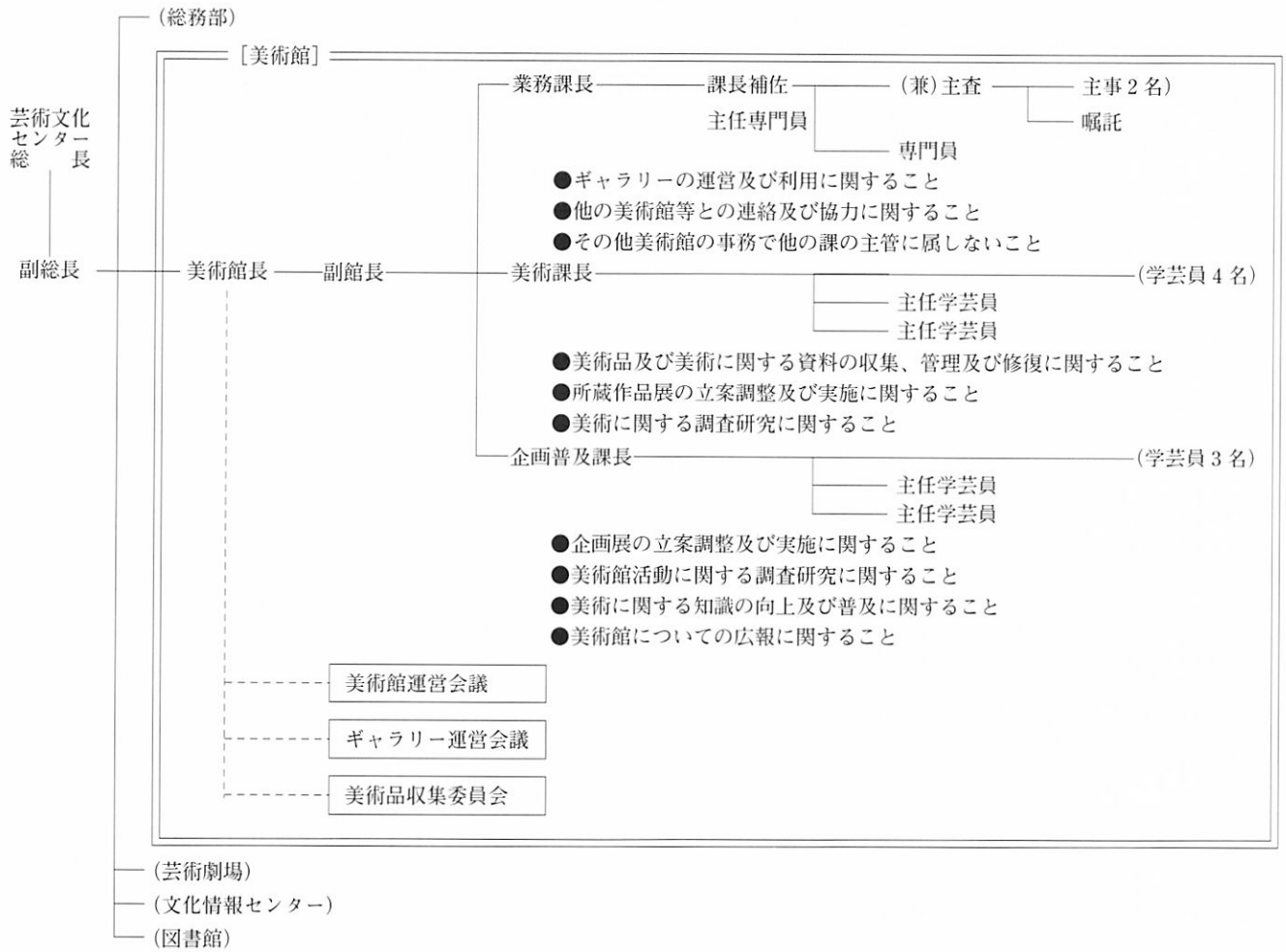
「総合展」は複数の種別にまたがる展覧会を指し、規模の大小には関係がない。





# 組織および職員構成

## 1. 組織図



## 2. 愛知県美術館職員名簿 (1999年3月)

館長	長谷川三郎
副館長	雪山 行二
業務課長	加藤 隆昭
課長補佐	長谷川英紀
主任専門員兼主査	広瀬 光生
専門員	奥村 治
〃	都竹 浩志
主事	高木 伸彦
〃	小林ひとみ
嘱託	木全 康子
美術課長	牧野研一郎
主任学芸員	高橋 秀治
主任学芸員	古田 浩俊
学芸員	拝戸 雅彦
〃	長屋菜津子
〃	鯨井 秀伸
〃	藤島 美菜
企画普及課長	木本 文平
主任学芸員	村田 真宏
主任学芸員	村上 博哉
学芸員	深山 孝彰
〃	栗田 秀法
〃	寺門臨太郎

## 関係委員会名簿(1999年3月、50音順)

### 愛知県美術館運営会議委員名簿

秋田 絃雄	愛知県文化振興事業団事務局長
浅野 徹	名古屋芸術大学教授
遠藤 恒夫	東海女子大学教授
岡部あおみ	武蔵野美術大学教授
陰里 鐵郎	横浜美術館長
笠井 誠一	愛知県立芸術大学名誉教授
蟹 吉光	愛知県総務部文化振興局長
小林 龍郎	名古屋市美術館長
酒井 哲朗	三重県立美術館長
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
馬淵 明子	日本女子大学教授
三浦 定俊	東京国立文化財研究所保存科学部長
宮澤 明倫	名古屋市博物館長事務取扱
村田慶之輔	美術評論家

### ギャラリー運営会議委員名簿

秋田 絃雄	愛知県文化振興事業団事務局長
石黒 鏘二	彫刻家、行動美術協会会員
笠井 誠一	洋画家、立軌会会員
加藤 清之	陶芸家
蟹 吉光	愛知県総務部文化振興局長
島田 章三	洋画家、国画会会員
樽本 樹邨	書家、日展会員
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
松井 和広	日本画家、創画会会員
宮澤 明倫	名古屋市博物館長事務取扱
山脇 一夫	名古屋市美術館学芸課長

### 美術品収集委員会委員名簿

浅野 徹	名古屋芸術大学教授
内山 武夫	京都国立近代美術館長
陰里 鐵郎	横浜美術館長
千足 伸行	成城大学教授
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔	美術評論家

愛知県美術館年報 1998年度版  
2000年3月発行  
編集 愛知県美術館  
発行 愛知県美術館  
名古屋市東区東桜1-13-2 〒461-8525  
PHONE : 052-971-5511  
FAX : 052-971-5604  
表紙デザイン・本文レイアウト 小谷恭治  
印刷 凸版印刷株式会社

**1998 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art**  
Edited by  
Aichi Prefectural Museum of Art  
Published by  
Aichi Prefectural Museum of Art  
1-13-2 Higashisakura Higasiku, Nagoya, 461-8525,  
Japan  
Designed and layouted by  
Kyoji KOTANI  
Printed by  
Toppan Print Co.  
©2000  
Printed in Japan